

CSRレポート2012



リンテックは、粘・接着製品、粘着関連機器、特殊紙、
剥離紙・剥離フィルムなどをはじめとして
幅広い分野で、さまざまな製品を生み出しています。
私たちの製品は、暮らしのあらゆる場面で活躍しています。



会社概要 (2012年3月31日現在)

社 名 リンテック株式会社
(英文:LINTEC Corporation)
本 社 所 在 地 〒173-0001 東京都板橋区本町23-23
ホ ー ム ペ ー ジ <http://www.lintec.co.jp/>
設 立 1934年10月
資 本 金 232億円
上場証券取引所 東京証券取引所市場第1部(証券コード:7966)
事 業 年 度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
代 表 者 代表取締役社長/社長執行役員
大内 昭彦
従 業 員 数 連結:4,286人 単体:2,564人
事 業 所 営業拠点:東京、札幌、仙台、北陸(富山県)、
静岡、名古屋、大阪、広島、
四国(愛媛県)、福岡、熊本
生産拠点:吾妻(群馬県)、熊谷(埼玉県)、
伊奈(埼玉県)、千葉、龍野(兵庫県)、
新宮(兵庫県)、小松島(徳島県)、
三島(愛媛県)、土居(愛媛県)、
新居浜(愛媛県)

研究開発拠点:研究所(埼玉県)
海外事務所:上海(中国)

子 会 社 連 結:国内4社、海外19社
非連結:国内5社、海外5社

事 業 内 容 粘・接着製品(シール・ラベル用粘着紙・粘着フィルム、マーキングフィルム、ウインドーフィルム、半導体関連テープ、光学機能性フィルム、ヘルスケア関連製品など)、特殊紙(カラー封筒用紙・色画用紙、特殊機能紙など)、加工材(剥離紙、剥離フィルム、合成皮革用工程紙、炭素繊維複合材料用工程紙など)、粘着関連機器(ラベル印刷機、ラベリングマシン、半導体関連装置など)の開発・製造・販売

売 上 高 連結:2,009億円
(2011年度) 単体:1,622億円

営 業 利 益 連結:140億円
(2011年度) 単体:74億円



財務情報などの詳細は、当社IRサイトをご覧ください。
<http://www.lintec.co.jp/ir/>

編集方針

本レポートでは、リンテックグループの社会的責任に関する活動を報告しています。構成は、大きく「企業統治」「社会性報告」「環境報告」の三つのカテゴリーに分け、さらに社会性報告は、ステークホルダーごとに活動を報告しています。特集では、海外グループ会社へのCSR説明会を採り上げ、リンテックグループのグローバルなCSR活動を紹介します。

また、2012年度は新たに、冊子には掲載していない情報をウェブサイトで公開しています。CSRサイトもあわせてご覧ください。



リンテックCSRサイト▶▶ <http://www.lintec.co.jp/csr/>



* このアイコンがある項目は、そのほかの内容を当社CSRサイトで公開しています。CSRサイトにおける情報の位置は、サイトの階層構造の順に簡潔に記述したリストで示しています。

参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
GRI「サステナビリティ レポートガイドライン第3.1版」
環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」
ISO26000(社会的責任に関する手引)

対象期間

原則2011年4月1日～2012年3月31日を対象としていますが、具体的な取り組み事例の一部には2012年6月までの内容を含んでいます。なお、海外グループ会社8社の環境パフォーマンスデータについては、2011年1月1日～2011年12月31日を対象期間としています。

対象範囲とその表記

本文中の報告対象範囲を以下のように整理し、表記しています。また、報告対象外の拠点については本文中の末尾に記載することで、報告対象を明確にしています。

●企業統治 ●社会性報告

「リンテック」:リンテック(株)

「リンテックグループ」:リンテック(株)および国内・海外グループ会社

●環境報告

「リンテック」:リンテック(株)の本社、吾妻工場、熊谷工場、千葉工場、龍野工場、新宮事業所、小松島工場、三島工場、土居加工工場、新居浜加工所、伊奈テクノロジーセンター、研究所および東京リンテック加工(株)

「リンテックグループ」:上記および海外グループ会社8社*

* 海外グループ会社8社

琳得科(蘇州)科技有限公司、琳得科(天津)実業有限公司、リンテック・スペシャリティー・フィルムズ(台湾)社、リンテック・コリア社、リンテック・スペシャリティー・フィルムズ(韓国)社、リンテック・インドネシア社、リンテック・インドネシア(マレーシア)社、リンテック・インドネシア(サラワク)社

INDEX

会社概要

編集方針	1
トップメッセージ	2
リンテックのCSR	3

特集

グローバル企業として リンテックのCSRを世界中の仲間と共有	4
-----------------------------------	---

CSR活動テーマと目標・実績	6
----------------	---

企業統治

至誠のために	8
--------	---

社会性報告

お客様のために	10
お取引先との協働	11
従業員とともに(人権・雇用/人材育成/安全防災)	12
地域社会とともに	18
コミュニケーション	20

環境報告

環境マネジメントシステム	22
環境対応製品の開発	23
地球温暖化防止	24
廃棄物の削減	26
用水使用量の削減と排水対策	27
環境負荷物質の削減	28
環境会計	29
海外グループ会社8社の環境保全活動	30
リンテックと環境のかかわり	32

第三者意見	33
-------	----

発行年月
前回発行年月 2011年9月
今回発行年月 2012年8月
次回発行予定 2013年8月

トップメッセージ

時代の変化やお客様のニーズに
こたえるものづくりを実践し、
社会から信頼される会社であり続けます。

リンテック株式会社 代表取締役社長
社長執行役員

大内 昭彦



我が国においては、東日本大震災とそれに伴う福島第一原子力発電所事故など未曾有の災害に直面した一年でした。被災地では復興に向けた力強い取り組みが続く一方で、今なお不自由な避難生活を送っておられる多くのかたがいらっしゃることを忘れてはなりません。当社は、今後も被災地への継続的な支援を続けてまいります。

当社は、1927年の創業以来、粘・接着分野における独自技術を生かし、世の中のニーズにこたえる革新的な製品を生み出してきました。現在、当社の製品は、皆様の生活のあらゆる場面でお使いいただいています。その“ものづくり”の根幹にあるのが、社是「至誠と創造」です。どうすれば役に立ち、喜ばれるかを考え、誠実に取り組む「至誠」。より高い付加価値を求めて、工夫と改善を続ける「創造」。この社是の実践こそ、当社の社会的責任(CSR)の精神そのものであり、社会から信頼される会社であり続ける必須条件と考えています。

移り変わりの激しい今の時代においては、社会の変化やお客様のニーズを先取りし、一歩先を読み、スピードを持って新規需要の開拓や新製品の創出に取り組むことが、企業の持続的な成長に欠かせません。そこで私は、グループ全社員が経営への参加意識を持ち、社員一人ひとりがもっとよい会社にしていこうという使命感に燃え、行動していくことを今年度の経営指針に掲げました。CSRの精神を徹底

していこうという意志は、毎年経営指針の一つに掲げていますが、これからも変わることなく貫いていくつもりです。

現在、当社グループでは、2011年4月からスタートした3か年の中期経営計画「LINTEC Innovation Plan III (LIP-III)」に、「CSR経営を根幹に置いた企業活動の推進」を盛り込み、CSRを事業戦略と一体で取り組むものと位置づけています。変化の激しいグローバル市場で評価され、勝ち残っていくには、それぞれの国や地域に密着した事業を展開し、より多くのリンテックファンを獲得していくことが重要です。そのため、海外グループ各社へのCSR説明会を実施し、CSRの浸透を図っています。

欧州債務問題の影響や長引く円高など、世界経済・日本経済ともに厳しい局面を迎えています。これをチャンスに変えるためにも、社是「至誠と創造」に立ち返り、すべてのステークホルダーから高い評価と信頼を得られるよう、グループ全社にその精神を徹底させてまいります。

本レポートは、この1年間を中心に当社グループのCSR活動をまとめ、ご報告するものです。本レポートをご覧いただき、私たちの事業活動へのより一層のご理解と、忌憚のないご意見・ご評価を賜ることができれば幸いです。

Top
Message

社是「至誠と創造」がリンテックのCSRの根幹

リンテックグループのCSRの根幹は、社是「至誠と創造」にあります。これは、私たちの“あるべき姿”です。「至誠」とは、どうすれば役に立ち喜ばれるかを考え、すべての仕事に真心を込めて取り組むことです。「創造」とは、現状に満足せず、より高い付加価値を求めて常に工夫と改善に取り組むことです。あらゆるステークホルダーに誠実であること、革新の気概を持って新たな挑戦を繰り返していくことが、“ものづくり”の会社としての原点です。“すべては「至誠」に始まり「創造」につながる” 私たちリンテックの変わらぬ姿勢であり、持続的成長を支える原動力です。

■ CSRの基本姿勢

リンテックグループでは、社是「至誠と創造」のもと、六つの基本姿勢に沿って取り組みを進めています。

企業倫理・コンプライアンスの徹底

企業不祥事を決して起こさないため、従業員教育を進め、会社も個人も自らを厳しく律する体質を強化します。

安全防災・健康の確保

安全・安心な職場をつくり、社員・家族の健康で充実した生活を支援します。

CS(お客様満足)の向上

製品のコスト・品質・環境・安全・サービスの向上を図り、お客様の立場に立った製品づくりを進めます。

社会貢献

経済的支援だけでなく、さまざまな活動を通じて地域社会と協働していきます。

環境への配慮

事業活動におけるエネルギーや資源の有効利用を図り、持続可能な発展に向け努力します。

株主・投資家重視の経営

情報開示や企業認知度向上を図り、コーポレートブランドの向上を目指します。

■ グローバルなCSR経営の推進

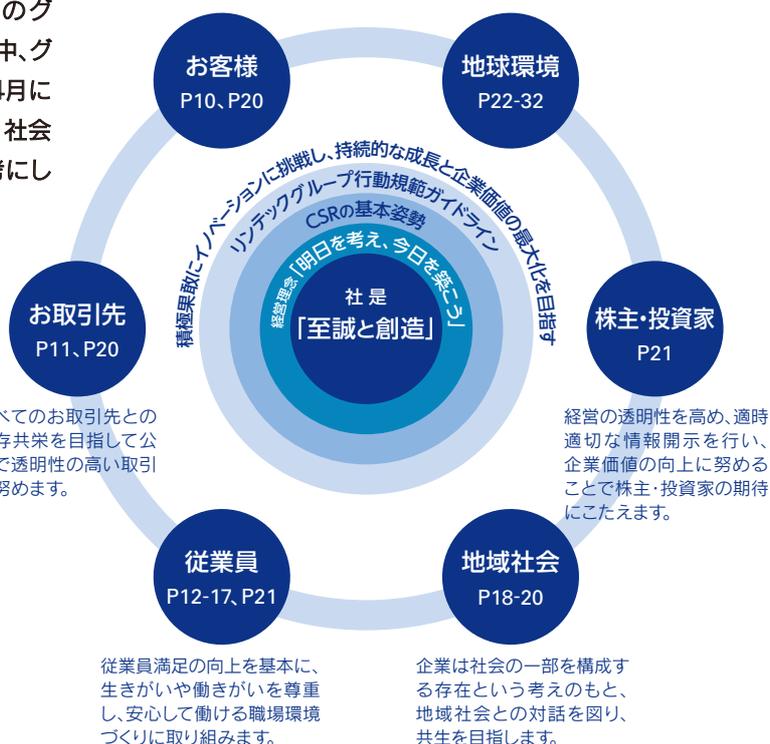
リンテックグループの事業は、お客様やお取引先、従業員、株主・投資家、地域社会、地球環境など、多くのステークホルダーによって支えられています。事業のグローバル展開に伴い、ステークホルダーも多様化する中、グローバルなCSR経営の推進が不可欠と考え、2011年4月に「国連グローバル・コンパクト」に参加しました。また、社会的責任に関する国際規格である「ISO26000」も参考にしながら、CSR経営を推進しています。

お客様からの期待にこたえ、信頼いただくために、製品の安定供給および品質管理とサービスの向上を図ります。

企業活動と地球環境の調和を目指し、環境負荷の低減に努めます。

「国連グローバル・コンパクト」の10原則

- 人権
 - 原則 1：人権擁護の支持と尊重
 - 原則 2：人権侵害への非加担
- 労働基準
 - 原則 3：組合結成と団体交渉権の実効化
 - 原則 4：強制労働の排除
 - 原則 5：児童労働の実効的な排除
 - 原則 6：雇用と職業の差別撤廃
- 環境
 - 原則 7：環境問題の予防的アプローチ
 - 原則 8：環境に対する責任のイニシアティブ
 - 原則 9：環境にやさしい技術の開発と普及
- 腐敗防止
 - 原則10：強要・賄賂等の腐敗防止の取組み



グローバル企業として リンテックのCSRを 世界中の仲間と共有



リンテックグループでは、グローバル企業としての責任を果たすべく、社は「至誠と創造」から成るCSRの精神を浸透させるための活動に取り組んでいます。それは単に書面で規則を伝えるのではなく、きちんと顔を合わせて心を伝える活動です。

CSRの推進が、 グローバル企業としての経営を 強化することにつながる

取締役常務執行役員
経営企画室長 兼 CSR推進室長

西尾 弘之

リンテックの社である「至誠と創造」は、当社におけるCSRの原点だと考えています。どうすれば役に立ち喜ばれるかを考え、すべての仕事に真心を込めて取り組む「至誠」。現状に満足せず、より高い付加価値を求めて常に工夫と改善に取り組む「創造」。こうした考え方をグループ企業すべての従業員と共有するため、アジア地区の海外グループ会社12社を対象に、2011年11月からCSR説明会を始めました。2012年度は欧米の5社についても実施します。説明会ではまず「社是について」と「CSRとは何か？」から説き、その目的・活動事例などを説明しています。

リンテックグループでは、海外グループ会社の具体的なCSR活動について各社が独自にアイデアを練り、実践しています。その一方で2011年4月に参加した「国連グローバル・コンパクト」への対応も進めていく必要があります。

今回、国内外での説明会を通して、宗教や国籍を超え、リンテックのCSRに対する共通認識と賛同が得られたと確信しています。さらに、CSRを推進することで事業部門間・組織間の交流機会が増え、事業の円滑化にも寄与するものと期待しています。

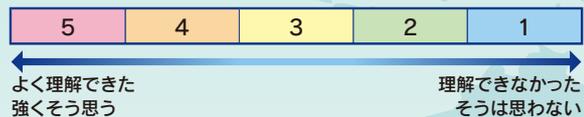
今後は、グローバルで共通した取り組みも含め、活動の具体策を検討していきます。特集では、まず、説明会で世界のグループ会社の従業員がCSRをどのように感じ、取り組みへの決意を固めているかを報告します。

CSR説明会参加者に対するアンケートを実施

2011年度にアジア地区の海外グループ会社12社を対象としたCSR説明会にて、参加者に対しアンケートを実施しました。

(回答総数416人)

評価方法:5段階評価



CSR担当者それぞれの想い



China
琳得科(蘇州)科技有限公司
長岡 洋司

世界の中で力強く発展している中国とともに成長してきた琳得科(蘇州)。さらなる成長を持続していくために、全社を挙げてCSRへの取り組みを推進し、国際社会に貢献できる企業に向けてまい進していきます。



China
琳得科(天津)実業有限公司
森永 尚夫

社是から成るリンテックグループのCSRを実現するうえで、個人の社会的責任(PSR*)は重要です。地域ごとに育った環境が違うため考え方も異なりますが、時間がかかっても共通認識を持つために活動を推進していきます。

* PSR: Personal Social Responsibility(個人の社会的責任)の略称。個人が社会に対して果たすべき責任。



China

リンテック・アドバンス・テクノロジー(上海)社
栗田 剛

個人の社会的責任(PSR)の維持・向上を図り、CSRの基盤ができ、さらなる段階へ移行するとよいと思います。そのためにも、CSRの大切さを認識し考える機会ができたことはよかったですと感じました。



Taiwan

リンテック・アドバンス・テクノロジー(台湾)社
蘇 崇中 (ソ・スウチュウ)

台湾では、CSRは多くの人にとって聞き慣れない言葉かもしれませんが、CSR活動が世界的に注目されているのも事実です。今回のCSR説明会を機に活動を持続的に推進し、従業員の意識高揚につなげていきます。



Korea

リンテック・コリア社
金 徳律 (キム・ドクリュル)・盧 知映 (ノ・ジョン)

CSRは企業活動の全般にわたる責任ある活動です。その中でも「信頼関係の構築」が大切なことだと思います。CSR活動を小さいことから一つずつ実践し、ステークホルダーとの信頼関係の構築に努めていきます。



Malaysia

リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社
Yew Wooi Heang (ユウ・ウイ ヒーアン)

リンテック・マレーシア社では従業員のCSRに対する認識はあまり高いとはいえませんでした。しかし、今回のCSR説明会を機に、CSRの講習や啓発活動を実施し始め、認識を高めることができると感じています。



Korea

リンテック・スペシャリティ・フィルムズ(韓国)社
白 東国 (ベク・ドングク)

企業活動はステークホルダーとの信頼関係に影響を及ぼします。信頼関係が向上すれば、企業は持続的な成長と発展が可能です。「信頼関係づくり」の活動に制限はありません。飽くまで自主的に考え実践していくことが大切です。



Malaysia

リンテック・インダストリーズ(サラワク)社
銭谷 孝雄

今回の説明会では、より深く従業員が理解し取り組んでもらうために、英語力が高い現地従業員に英文資料をマレーシア語へ翻訳してもらうとともに、補足説明を加えながらCSRの考え方を共有しました。



Korea

リンテック・アドバンス・テクノロジー(韓国)社
朴 正謨 (パク・ジョンモ)

今回、CSR説明会に参加し、自分が当たり前なことを当たり前にするのがCSRの基本になると感じました。今後は、自分の責任ある行動からリンテックのCSR活動へと発展させていきたいと考えています。



Singapore

リンテック・シンガポール社
Cindy Soh (シンディー・ソウ)

今回のCSR説明会で、個人の社会的責任(PSR)が、CSRという目標に向かう重要な要素であることを知りました。今後は、従業員はすべての行動に倫理的な思考を持つ必要があるという認識を高めていきます。



Taiwan

リンテック・スペシャリティ・フィルムズ(台湾)社
蔡 清祥 (サイ・セイショウ)

CSRが企業にとって必要な理由は、推進することでステークホルダーからの信頼が高まり、そして信頼できる人材が集まるからです。CSRの推進により、企業は好循環となり社会の持続的成長が共に期待できるようになります。



Indonesia

リンテック・インドネシア社
Sitha Damayanti (シータ・ダマヤンティ)

親しい友人が実はCSRマネジャーをしており、CSRの修士課程を専攻していることを最近知りました。CSRがインドネシアでも普及していることを認識し、自分もCSR担当者として、活動の推進に努めていきます。

CSR活動テーマと目標・実績

リンテックと社会が共に持続的に発展するためには、法令遵守はもとより、社会からの要請にこたえるさまざまな取り組みが必要です。

CSRの基本姿勢に合わせ組織横断的なメンバーで構成された委員会が、CSR活動を推進しています。

2011年度 CSR活動テーマと目標・実績

◎大幅達成 ○達成 △未達成

	基本理念	活動テーマ	2011年度の目標	達成状況
企業倫理	「企業倫理・法令遵守」を重要な経営課題と位置づけ、従業員一人ひとりへの意識の浸透と日々の実践を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ●従業員一人ひとりが自覚を持ったよき市民として行動する ●コンプライアンスの徹底を図り、社会から信頼される会社を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ●双方向(参加型)による倫理観の浸透 ●各種管理規程の徹底および見直し(情報セキュリティ・個人情報・営業機密など) ●提案型活動の推進 	○
CS(お客様満足)	お客様からの信頼確保と責任を果たすことを基本に置いた、製品の安定供給および品質とサービスの向上を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ●リンテック品質・環境方針に基づいた具体的活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●CSスローガン“みんなが喜ぶ製品をつくろう”“Lintec Products make everybody happy!”をコンセプトとし、八つの行動指針に沿って立案した具体的な活動の推進 	○
安全防災・健康	従業員満足度の向上を基本に置いた、安心して働ける職場環境の整備を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ●天災・人災への素早い対応 	<ul style="list-style-type: none"> ●天災被害の最小化 ●海外事業所単位の行動計画策定 	○
		<ul style="list-style-type: none"> ●安全、健康を保障する管理体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ●労働安全衛生マネジメントシステムの導入 ●心の健康回復/健康増進 	
		<ul style="list-style-type: none"> ●伝染病予防対策 	<ul style="list-style-type: none"> ●新型インフルエンザ行動計画に基づくアクションプランの策定 	
		<ul style="list-style-type: none"> ●長時間労働対策・年次有給休暇取得促進 	<ul style="list-style-type: none"> ●長時間労働の実態と原因把握 ●年次有給休暇取得促進の検討 	
社会貢献	地域・国際社会におけるよき企業市民として、社会的課題の解決に寄与し、それら社会の持続的発展に貢献する身の丈に合った活動を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ●身の丈に合った活動 ●継続可能な活動 ●地域密着型の活動 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域社会との交流 ●活動の充実と定着化 ●社員の活動参加意識の向上と支援 	○
IR	株主・投資家重視の経営とコーポレートブランド向上のための活動を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ●株式市場での評価を高め(適正な株価形成)、企業・株主価値の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ●投資家・証券アナリストの新規開拓・関係強化 ●株主との関係強化 ●認知向上とコミュニケーションの強化 	◎
環境保全	素材メーカーとしての「環境負荷の低減」「資源の有効利用」を基本に置いた、生産および研究・開発などの全社的活動を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ●法令遵守の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ●相互内部監査による確認・改善 	◎
		<ul style="list-style-type: none"> ●環境関連広報・教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ●全社的な環境活動の啓発・教育 	○
		<ul style="list-style-type: none"> ●生物多様性の保全 	<ul style="list-style-type: none"> ●生物多様性に関する啓発・教育の実施 	○
		<ul style="list-style-type: none"> ●環境配慮型製品の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ●LCA基準に基づく開発件数8件 	◎
		<ul style="list-style-type: none"> ●CO₂排出量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●目標数値181千t/年 	◎
		<ul style="list-style-type: none"> ●エネルギー使用量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●エネルギー原単位1%改善(2010年度比) 	△
		<ul style="list-style-type: none"> ●化学物質の管理徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ●お取引先監査5件 	◎
		<ul style="list-style-type: none"> ●大気排出VOC量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●目標数値1,000t/年 	◎
<ul style="list-style-type: none"> ●産業廃棄物処理費用の低減 	<ul style="list-style-type: none"> ●目標金額185,000千円 	◎		



取締役
常務執行役員
経営企画室長
兼 CSR推進室長
西尾 弘之

国際社会からの期待にこたえるためには、国内外すべての従業員がCSRの精神を理解し、実践していかなければなりません。2011年度は「国連グローバル・コンパクト」への参加、ISO26000の活用など、グローバル基準への準拠に取り組みました。さらに2012年度は、海外のグループ会社に対して、「社是」やCSR活動の意義を共有するためにCSR説明会を実施しました。

2011年度の主な活動実績	推進担当役員のコメント	2011年度 活動報告
<ul style="list-style-type: none"> ●「りんりかわら版」vol.5の発行 ●行動規範ガイドラインの多言語版小冊子発行 ●情報セキュリティーの各事業所での運用細則の作成・運用開始 	<p>企業倫理推進担当役員 小林 賢治 取締役 常務執行役員 技術統括本部長</p> <p>企業倫理を保ち、問題を未然に防ぐためには、仕組みとともに、それを運用する従業員一人ひとりに「至誠」の想いが根づいている必要があります。今後も倫理観の浸透や啓発により一層努めていきます。</p>	<p>企業統治 至誠のために P8-9</p> <p>組織統治* 公正な事業慣行*</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●e-ラーニングの実施 「統計的手法」第2回・受講率74%、 「デザインレビュー」第2・3回・受講率74% ●企業文化に関する従業員アンケートの実施 ●職制別・職能別教育を体系化した階層教育案の作成 	<p>CS推進担当役員 飯海 誠 取締役 常務執行役員 事業統括本部副本部長 兼 アドバンスドマテリアルズ事業部門分掌</p> <p>“みんなが喜ぶ製品をつくろう”をスローガンに、「リントック品質・環境方針」にのっとった行動と、社内での情報共有、お取引先との連携により、さらなるお客様のご要望におこたえます。</p>	<p>社会性報告 お客様のために お取引先との協働 P10-11</p> <p>消費者課題* 公正な事業慣行* 人権*</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●東日本大震災を受けての防災指針の作成と配付、社内アンケートの実施 ●海外危機管理規定の見直し、海外赴任者および海外出張者用ガイドライン冊子の作成・配付 ●労働安全衛生マネジメントシステムとして安全相互監査実施 ●メンタルヘルスサポートの告知用パンフレットの作成・配付 ●長時間労働の実態調査・予防措置実施 ●年次有給休暇取得の実態調査・取得の推進 	<p>安全防災・健康推進担当役員 小山 貢二 取締役 常務執行役員 生産本部長 兼 品質・環境統括本部管掌</p> <p>リントックグループの全従業員が、安全・安心で、健康的・快適に働ける環境を確保するため、労働安全衛生方針にのっとった職場環境の整備を引き続き進めていきます。</p>	<p>従業員とともに P12-17</p> <p>人権* 労働慣行*</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●東日本大震災の被災者へ義援金寄附 ●地域清掃活動の実施 ●板橋地区暴力団追放連絡会・キャンペーン参加 ●障がい者支援活動 ●4事業所で合計896人の工場・施設見学の受け入れ 	<p>社会貢献推進担当役員 市橋 孝二 取締役 常務執行役員 事業統括本部副本部長 兼 産業工材事業部門分掌</p> <p>地域社会を大切にし、その一員として期待にこたえられるよう国内外で社会貢献活動を行っています。今後も当社が社会課題に対しどのような貢献ができるかを検討し、実施していきます。</p>	<p>地域社会とともに (コミュニティ参画) P18-19</p> <p>コミュニティへの参画 及びコミュニティの発展*</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●国内の機関投資家・証券アナリストに向け、300件以上のIRミーティングや取材対応などを実施 ●海外機関投資家向けに、北米5都市と欧州7都市を訪問 ●国内の海外投資家向けに、IRイベントに3回参加、IRミーティング実施 ●個人投資家向け会社説明会などの実施 ●株主通信誌、IRサイトなどによる情報提供の充実 	<p>IR推進担当役員 浅井 仁 取締役 専務執行役員 管理本部長 兼 総務・人事本部管掌</p> <p>株主・投資家の皆様へ、正確な情報を、公平に、そしてタイムリーに提供することは、当社への信頼を得るための第一歩です。より一層の信頼関係を築くため、IR活動を推進していきます。</p>	<p>コミュニケーション P20-21</p> <p>組織統治*</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●全サイトの環境法令監査実施 ●エコニュース30件配信、e-ラーニング3件実施 ●森林見学ツアー参加やエコニュースによる啓発 ●LCA基準に基づく15件の開発で目標達成 ●約169千t/年で目標達成 ●2010年度比-0.6%で目標未達 ●5件の監査実施により目標達成 ●VOC排出量は約908t/年で目標達成 ●171,580千円で目標達成 	<p>環境保全推進担当役員 山戸 義幸 常務執行役員 品質・環境統括本部長</p> <p>リントックグループでは、事業活動における環境負荷の低減から、環境配慮型製品の創出までを目指しています。CO₂排出量・廃棄物量・環境負荷物質排出量の削減だけでなく、環境配慮型製品の開発数値目標を設定し、取り組んでいきます。</p>	<p>環境報告 P22-32</p> <p>環境*</p>

* ISO26000の7つの中核主題を示しています。この手引を参考に、リントックのCSR活動を報告しています。

企業統治

リンテックグループは、社是「至誠と創造」をあるべき姿とし、公明正大な企業活動に努めています。ここでは、それを実践し社会に貢献するための取り組みや体制について報告します。

至誠のために

リンテックグループの社是「至誠と創造」が、示すように「企業倫理」と「法令遵守」は経営の最重要テーマです。また、CSRの基盤と位置づけ、経営体制の強化に努めています。

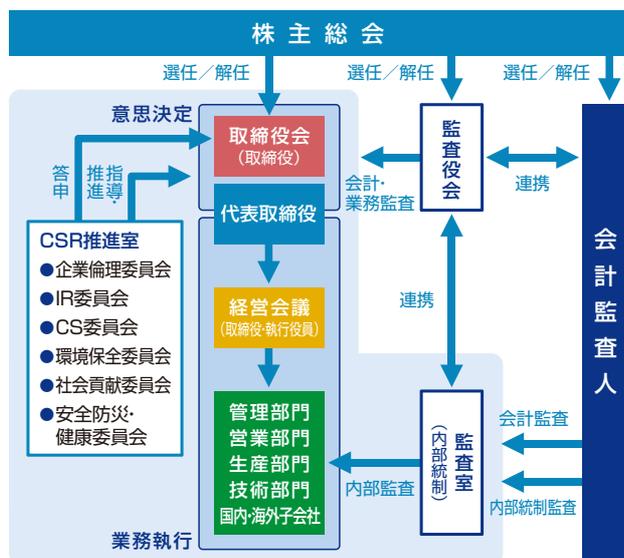
■ コーポレート・ガバナンス

リンテックグループは、法令遵守を徹底し、経営の透明性と企業倫理の意識を高め、迅速な意思決定および効率的な業務執行を行っていくことが、コーポレート・ガバナンスの基本であると考えています。その充実・強化を通じて、リンテックグループの企業価値および株主共同利益のさらなる向上を目指します。

コーポレート・ガバナンス体制

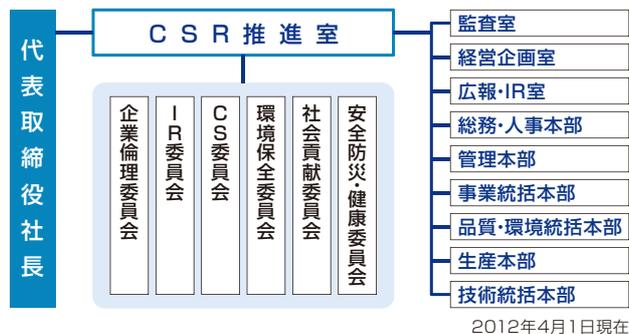
2011年6月24日から執行役員制度を導入し、経営を意思決定する取締役と、業務を執行する執行役員とを分離しました。また、取締役の員数を減少させ10人(社内取締役8人、社外取締役2人)とし、取締役会の活性化と意思決定の迅速化を通して、経営の効率化を図っています。監査役(社内監査役2人、社外監査役2人)は、取締役会と経営会議に常時出席して意見聴取を行い、内部監査部門や会計監査人と連携し、取締役の業務全般について監査しています。また、監査役会では、各監査役が実施した業務監査の結果を共有し、取締役による意思決定と、執行役員による業務執行の適正さと効率性のチェックを強化しています。

コーポレート・ガバナンス体制



CSR推進体制

リンテックでは、CSRの六つの基本姿勢に沿ってCSR活動を推進しています。CSR推進室は、社長直轄の組織とし、全社での高い倫理観の育成とCSRの浸透、およびCSR六委員会の活動支援を行っています。六委員会は組織横断的のメンバーで構成され、各委員会に推進担当役員を配することで、経営の立場から責任を持って活動をリードしています。



■ コンプライアンス

リンテックグループでは、社是「至誠と創造」に基づき、従業員一人ひとりが自らを厳しく律するよう努めています。そのため、執るべき行動をまとめた「行動規範ガイドライン」や、親しみやすい小冊子「りんりかわら版」などで積極的な浸透を図っています。また、2012年2月には、役員と管理職者を対象(414人)にハラスメントや誠実な活動、適切な情報開示などの項目について、アンケート調査を行いました(回答率68.6%)。この結果はリスク評価委員会へ報告され、社内の啓発活動などに有効活用されています。今後も、定期的な調査を実施していきます。



行動規範ガイドラインは日本語・英語・韓国語・中国語(簡体字・繁体字)・マレーシア語・インドネシア語の計6言語で発行



「リンテックりんりかわら版守ってマスク!」は5巻まで発行

ホーム>CSR>企業統治>至誠のために
(りんりかわら版/行動規範ガイドライン)

リンテックグループ行動規範

● 行動規範

企業活動の根幹は「コンプライアンス（法令遵守）」であり、リンテックグループの国内外における企業活動において「関連法規」ならびに「社会ルール」を遵守する。

私たちリンテックグループの役員・従業員等は、

1. 常に、社会に貢献できる製品とサービスを提供します。
2. すべての取引先との間で、自由な競争原理に基づく、公正・透明な取引を行います。
3. すべての企業活動において、国内・外の法規を遵守するとともに、高い倫理感を持って自らを律します。
4. 株主・投資家・取引先・地域社会・従業員等、当社の企業活動にかかわるすべての人々との関係を重んじます。
5. 地球環境問題を重要な経営課題と位置づけ、環境への負荷の抑制・削減へ積極的に取り組みます。
6. 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行います。
7. 政治・行政とは、公正で透明な関係を維持します。
8. 反社会的勢力は排除します。
9. 企業活動に伴い接待・贈答が必要な場合には、社会的常識の範囲内で節度を持って行います。
10. 企業情報を適正に管理し、適時・適正に開示します。
11. 知的財産権の管理に万全を期すとともに、他社の知的財産権を尊重し、これを侵害しません。
12. 役員・従業員一人ひとりの人権と人格を尊重し、公正に処遇し、職場環境の維持に努めます。

2003年1月制定
2011年4月改定

独占禁止法の遵守／汚職、贈収賄の防止

リンテックグループでは、独占禁止法の遵守に関して行動規範2項に「すべての取引先との間で、自由な競争原理に基づく、公正・透明な取引を行います」、汚職、贈収賄の防止に関して行動規範7項に「政治・行政とは、公正で透明な関係を維持します」と定め、行動規範ガイドラインに詳細を記載しています。

■ リスク管理

リンテックグループでは、グループ全社を対象に会社経営にかかわるあらゆるリスクを洗い出し、緊急度や重要度に応じて改善に取り組むなど、問題発生の防止に努めています。2009年4月にはリスク管理体制の強化を目的として、各本部長から成る「リスク評価委員会」を設置しました。四半期ごとに開催し、その結果を取締役に報告しています。



Voice 1

内部統制、 内部監査について

監査室 係長 阿久津 誠

BCP(事業継続計画)*

リンテックでは、事業部門別に策定したBCPを、各工場や事業所へ展開しています。特に当社では製品品種が多く、使用原材料の確保が大きなポイントになるため、お取引先情報の収集に重点を置いたBCPの策定と全社統括危機管理規程などの見直しを進めています。2012年3月13日～15日には国内グループ会社に勤務する従業員を対象にした安否確認訓練を実施しました。この結果、48時間以内に3,044人の返信があり(全体の約90%)、1時間以内での返信率は約42%でした。

情報セキュリティー管理

リンテックでは、情報セキュリティー管理規程内部監査用チェックリストに基づく部門内自己診断を実施しており、本社、飯田橋オフィス、大阪支店では企業倫理委員会による内部監査も行っています。2011年度には、本社全部署の内部監査が終了し、情報セキュリティー運用細則・手順書の作成不備が分かりました。各部署で内容が異なるため、企業倫理委員会ではそのひな形となる「情報セキュリティー運用細則兼内部監査チェックリスト」を作成しました。部署ごとの運用細則の作成、および自己監査体制の構築を進めています。

ヘルプライン

リンテックでは、職場の悩みや法令違反を相談するための窓口として、ヘルプライン(内部通報制度)を設けています。社内に相談しづらい内容も迅速な相談と調査ができるようにするため、2008年4月からは第三者機関である顧問弁護士を相談窓口に加えました。ヘルプライン活用のためには、リンテック全従業員に配付している行動規範ガイドラインへ掲載するなどの社内周知を行い、問題を早期発見・解決し、企業リスクの軽減を図っています。

リンテックグループが法令・規程を遵守し、業務を正確に行うために、監査室では業務内容を確認するなどの内部監査を実施しています。もし、運用面で業務上の間違いを確認した場合は、追加の規程・ルールの制定を別途要求します。法令や社内規程を遵守することは、結果的に効率的・効果的な業務を促進することになる、という思いを持って監査室での業務に臨んでいます。

* BCP: Business Continuity Plan(事業継続計画)の略称。企業が事故や災害などの緊急事態に遭遇した場合、損害を最小限にとどめつつ、事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために事前に策定される行動計画。

社会性報告

リンテックグループは、お客様やお取引先、従業員、株主・投資家、地域社会など、多くのステークホルダーの皆様に支えられています。ここでは、社会と企業の持続的発展を目指した活動を報告します。

お客様のために

お客様からの期待にこたえ、信頼いただくために、製品の安定供給、品質管理の徹底およびサービスの向上を推進しています。

■ 品質保証への取り組み

“みんなが喜ぶ製品をつくろう”をスローガンに、“ものづくり”の原点である「品質」「環境」「安全」を基本とした開発・製造・販売活動の中で、継続的な改善活動を行っています。その活動は、品質管理に関するe-ラーニングでの社内教育、購入原材料における化学物質管理の強化、製造工程での品質事故の事前抽出とその予防処置など多岐にわたっています。これからも、よりよい品質の製品とサービス提供に努めていきます。(リンテックグループ品質・環境方針は、P22参照)

品質保証体制

リンテックグループでは、2011年度までにグループ会社を含め国内11事業所、海外グループ会社10社でISO9001*1の認証を取得し、品質管理・改善の活動に取り組んでいます。また、統合認証取得に向けた活動もスタートし、さらなるお客様満足の向上を目指した体制づくりに努めています。

ISO9001認証取得状況(社)

	2009年度	2010年度	2011年度
認証取得数	19	19	21

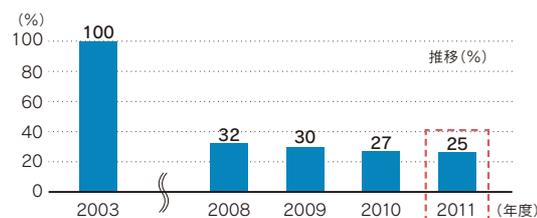
■ CS(お客様満足)向上のために

リンテックでは、お客様に喜んでいただけるものづくりのためには「市場基準であること」「安くてもよいものをつくること」が重要だと考えています。そのために、円滑な社内コミュニケーション推進を目的とした全従業員アンケートやe-ラーニングによる教育プログラムの内容充実などのCS活動を進めています。また、お客様のご要望に応じてさまざまな監査を受け入れており、2011年度は延べ57社のお客様から監査を受けました。これからもお客様のご意見を基に、よりよい製品づくりに取り組んでいきます。

品質事故の予防

リンテックではISO9001に基づき、潜在的な故障・不具合の体系的な分析方法であるFMEA(Failure Mode and Effect Analysis)などの手法を活用したデザインレビュー*2や、独自の品質管理システムの活用を推進しています。さらに、開発部門・製造部門・営業部門の連携による品質管理体制を構築しています。

品質事故件数比率(2003年度の件数を100%とした比率)



Voice 2

品質保証と環境配慮

リンテック・アドバンス・テクノロジーズ(台湾)社
広報部 主任 呂 筱薇 (ルー・シャオウエイ)

リンテック・アドバンス・テクノロジーズ(台湾)社では、お客様満足向上のためにできることはないかを常に考えています。2011年7月にISO9001の認証を取得し、さらに、信頼される企業となるため2012年中にISO14001*3の認証を取得予定です。リンテックグループの一員として信頼される会社になれるよう、社員が一丸となって努力していきます。



ISO9001
審査登録証

*1 ISO9001: 品質マネジメントシステムの国際標準規格。

*2 デザインレビュー: 開発における成果物(仕様書、設計書など)を、製造部門や営業部門など異なる立場でチェック・評価する方法。JIS(日本工業規格)やISO9000シリーズにおいて定義されている設計審査。

*3 ISO14001: 環境マネジメントシステムの国際標準規格。

お取引先との協働

リンテックグループでは、お取引先との共存共栄を目指して、公正で透明性の高い取引に努めています。

■ 公正な取引

リンテックグループでは、国内外すべてのお取引先に対して公平な機会を設け、公正・透明な調達活動を行うことを基本方針としています。お客様のニーズを反映した適正な調達を行うことにより、お取引先とともに製品品質・サービスの向上を図ります。また、適正な供給者評価を行い、お取引先との信頼関係の形成・維持に努めます。

CSR調達

リンテックグループでは、「リンテック原材料調達基本方針」に従って調達活動を推進しています。この方針により、法令遵守、製品の品質・安全性、情報セキュリティ、公正取引、環境活動、人権尊重・労働・安全衛生など、あらゆる観点からCSR調達の徹底を目指しています。また、方針をお取引先に理解していただくために、さまざまな機会でお伝えしています。

リンテック原材料調達基本方針

1. 公正・透明な取引

すべての取引先の皆様との間で自由な競争原理に基づく公正・透明な取引を行います。取引先の選定に当たっては広く門戸を開放し、品質・価格・納期・供給安定性・技術力・サービスおよび環境保全への取り組みなどについて、適正な評価を行います。

2. パートナーシップの構築

すべての取引先の皆様に「相互発展を目指すパートナー」と考え、信頼関係を築いていきます。

3. 法規・社会規範の遵守

調達活動に当たって、国内外の法規・社会規範を遵守するとともに、取引先の皆様にもその遵守徹底を求めます。

4. 環境への配慮

「リンテックグリーン調達方針」に基づき、環境負荷低減に配慮した調達活動を推進するとともに、取引先の皆様にも環境保全活動の推進および化学物質管理の徹底を求めます。

5. CSRの徹底

調達活動に当たって、取引先の皆様とともに人権尊重、労働・安全衛生、品質・安全性確保、情報セキュリティ、企業倫理など、あらゆる観点からCSRの徹底を図っていきます。

2009年8月10日制定

グリーン調達

リンテックグループでは、環境に配慮した製品をお客様に供給するために「リンテックグリーン調達方針」を掲げ、当社製品の原材料、部品、副資材の化学物質管理の徹底とともに、環境負荷の少ない原料を優先的に調達するよう努めています。木材パルプの調達では「リンテック 木材パルプ調達方針」に基づき、グリーンパルプ*4も積極的に採用。開発品の原材料選定では、デザインレビューの過程で、「顧客ニーズに合致したのかどうか」に加え、「化学物質管理上で問題がないか」「環境に配慮したのか」をチェックしています。

 [ホーム](#) > [CSR](#) > [社会性報告](#) > [お取引先との協働](#)
([リンテックグリーン調達方針](#)/[リンテック木材パルプ調達方針](#))

お取引先品質監査・環境監査

リンテックグループではお客様に製品を安心してご使用いただくため、製品の品質向上や含有化学物質管理強化に努めており、計画的にお取引先の品質監査・環境監査を実施しています。監査の目的はお取引先との良好なパートナーシップの構築と、源流管理です。2011年度は品質監査25件(国内23件、海外2件)、環境監査5件(国内5件)を実施しました。今後も、お取引先とのより一層の関係強化に取り組んでいきます。

■ 震災後の取引について

震災影響への対応

東日本大震災に起因した福島第一原子力発電所の事故を受け、国内外のお客様から当社製品に対して、放射性物質に関する影響のお問い合わせがありました。安心して当社製品をご利用いただくため、ご依頼のあったお客様に対し原材料を含めた生産拠点付近の放射線量情報(文部科学省発表値)をご報告しました。(2011年4月18日~2012年4月4日で約5,500件)

お取引先とのBCPに関する協働

リンテックでは、東日本大震災の教訓を踏まえたBCPの考え方を基本に、さまざまな災害対応を進めています。当社が被災した場合のみならず、原材料の供給元であるお取引先の有事に備えた体制づくりが不可欠と考えています。そのため、お取引先に対して事業継続能力の確認と対応策などについて調査協力をお願いし、回答を頂きました。今後もリスク回避のための取り組みを進めるとともに、サプライチェーンの強化を図っていきます。

*4 グリーンパルプ: リンテックの登録商標。合法的かつ適切に管理された森林からの木材を原料とするパルプ(森林認証パルプ、植林木パルプを含む)、および再・未利用材から得られるパルプ、非木材パルプなどで、無塩素漂白により製造されたパルプ。

従業員とともに ～働きがいのある職場環境に(人権・雇用)～

リンテックグループでは、全従業員が明るく活力を持って仕事ができるように、意識啓発や支援制度の整備などさまざまな取り組みを行っています。

■ 人権と多様性(ダイバーシティ)の尊重

リンテックグループでは、国内9社、海外24社(連結・非連結含む)の従業員が社是「至誠と創造」のもと、共に働いています。全従業員が平等に働きがいを持てるよう、人種、信条、性別、学歴、国籍、宗教、年齢などによるあらゆる差別的取り扱いをせず、従業員一人ひとりの多様性(ダイバーシティ)を尊重*1しています。また、強制労働や児童労働の禁止を原則としている「国連グローバル・コンパクト」へ2011年に参加し、実効性を高めています。今後も、全従業員が互いを認め合いながら成長を続けることを目指してまいります。

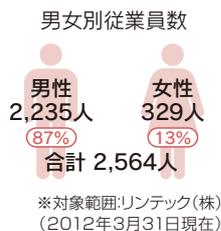
人権尊重の労務管理

リンテックグループでは、企業活動の根幹には「コンプライアンス」があるとし、国内外の企業活動において「関連法規」ならびに「社会ルール」の遵守を徹底しています。これは従業員の採用や就労に関しても同様であり、不当な差別行為、児童労働、ハラスメントの禁止など労働関連法規を遵守した労務管理を行っています。

公正な雇用機会

リンテックグループでは、役員・従業員一人ひとりの人権と人格を尊重し、公正に処遇して職場環境の維持に努めています。

雇用状況



障がい者雇用

リンテックは障がい者の雇用に努めていますが、2011年度の通期雇用率は1.71%となり、法定雇用率である1.8%を下回りました。2012年度は法定雇用率を上回ることを目指し、各事業所において障がい者雇用を促進します。

ジョブリターン制度

リンテックでは、2010年4月からジョブリターン制度を導入しています。結婚、妊娠、出産、育児、家族の介護、配偶者の転勤など、家庭の事情により一度は自己都合で退職した社員を即戦力として再雇用しています。

高齢者雇用

リンテックでは、高齢者継続雇用を行っています。2011年度は定年退職者31人のうち13人を再雇用しました。慣れ親しんだ職場で永年培ってきた技術・経験を生かし、後輩の育成にも注力しながら元気に活躍しています。

労使関係

リンテックでは、労働組合として「リンテックフォーレスト」が組織されています。労使協議では、リンテックとリンテックフォーレストが互いの立場を尊重した姿勢で臨み、話し合いによる問題解決を図っています。また、定期的開催する協議会では、事業推進のための創造的な意見交換を行っています。

リンテックフォーレストの状況

年度	フォーレスト会員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数
2009	2,151	36.7	15年6か月
2010	2,146	37.0	15年6か月
2011	2,148	37.1	15年8か月

注)各年度末現在

Voice 3

女性マネジャーの果たせる役割

リンテック・シンガポール社
取締役 人事部長
Cindy Soh (シンディー・ソウ)

一般的に女性は、複数の業務進行に慣れており、多様な仕事での効果的な時間管理ができます。また、多くの女性は好奇心おうせいなため、課題の原因とその解決策を見つけ出し、従業員の悩みを共感し、理解することで賢明な意思決定をすることができると思います。このように、マネジャー職に女性を配属することで、今日の組織に必要なとされる対話型のリーダーシップが発揮されると考えています。

*1 多様性(ダイバーシティ)の尊重:人や集団間に存在する「多様性」を尊重することで、適材適所での各能力の発揮や多様な視点での問題解決、独創的なアイデアの創出などを促進。

*2 海外グループ会社8社:琳得科(蘇州)科技有限公司、琳得科(天津)実業有限公司、リンテック・スペシャルティフィルムズ(台湾)社、リンテック・コリア社、リンテック・スペシャルティフィルムズ(韓国)社、リンテック・インドネシア社、リンテック・インドネシア(マレーシア)社、リンテック・インドネシア(サラワク)社

■ ワークライフバランス

リンテックでは、社員が安心して仕事に取り組み、その能力を十分に発揮できるよう、働きやすい職場環境の整備や仕事と生活の調和がとれた働き方の実現に取り組んでいます。休暇制度では、本人に限らず家族が病気や怪我をした際の看護にも利用できる保存休暇制度や、地元の地域活動への参加にも利用できる社会貢献休暇制度などを導入し、安心して仕事に取り組める体制づくりに努めています。

社員支援の制度

● 介護支援

介護休業制度 (通算93日間以内)

介護休暇制度 (当該家族が1人の場合5日/年度
当該家族が2人以上の場合10日/年度)
* 半日単位の取得もできるものとする

対象: 要介護状態にある対象家族の介護そのほかの世話をを行う社員

保存休暇制度 (有給休暇を50日間まで積み立て)

対象: 社員自身の病気や怪我などの長期治療、
および家族の看護・介護をする社員

● 子育て支援

出産休暇制度 (通算14週間)

対象: 出産する社員

育児休業制度 (対象期間内で社員が申し出た期間)

対象: 子が満1歳に達する日(事情により1歳6か月に達する日)
までの間で、申し出をした社員

子の看護休暇制度 (当該子が1人の場合6日/年度
当該子が2人以上の場合10日/年度)
* 半日単位の取得もできるものとする

対象: 小学校就学前の子の看護または子に予防接種・健康診断
を受けさせるために申し出をした社員

時短・時差勤務制度 (子が満3歳に達するまで)

対象: 満3歳未満の子を養育し、申し出をした社員

● ボランティア支援

社会貢献休暇制度 (3日間/年度)

対象: 災害時の救援活動や地元の消防活動、幼稚園・小・中学校
の活動、地域の町おこし活動などに参加する社員

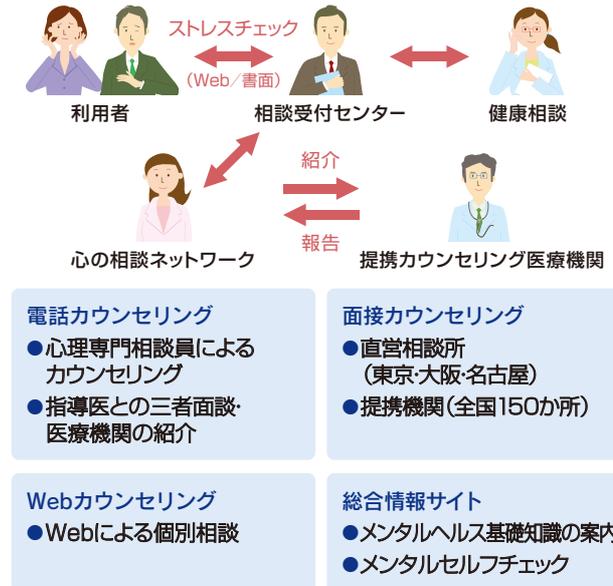
各制度の利用者数 (人)

制度	2009年度	2010年度	2011年度
介護休業制度	0	0	2
介護休暇制度	0	1	2
保存休暇制度	62	47	55
出産休暇制度	15	16	13
育児休業制度	19	22	22
子の看護休暇制度	4	7	11
時短・時差勤務制度	6	8	11
社会貢献休暇制度	23(延べ34日)	24(延べ42日)	23(延べ41日)

メンタルヘルス対策

リンテックグループでは、予防型EAP*3システムを導入しています。厚生労働省の「職業性ストレス簡易調査票」を基にした「心の健康診断」を年1回受診することにより、各自がストレスの状況を把握し、メンタルヘルスの自己管理に役立てています。また、リンテックグループの社員とその家族のために、健康・メンタルヘルス、育児・介護、法律・家計などの悩みを会社や外部に知られることなく専門家に相談できる、サポートホットラインを設置しています。

予防型EAPシステムの概要



メンタルヘルス講習会の開催

リンテックでは、予防型EAPシステムの一環として、毎年テーマを決めてメンタルヘルス講習会を開催しています。2011年度は、管理・監督職を対象にTV会議システムを利用した「職場でのメンタルヘルス対策」の講習会を実施しました。心の負担は本人がそれを自覚するよりも前に、周りが変化に気づき対処することで早期発見につながります。職場でどのような変化から異常に気づき、フォローすればよいかについて、臨床心理士から具体的な事例を交えて説明を受けました。講習会を続けることにより、メンタルヘルスに対する職場の理解を深め、予防に役立てています。

長時間労働対策

リンテックでは、長時間労働による弊害を防ぐため、人員の適正配置や業務量の平準化を図るよう努めています。体や心に過度の負担をかけないように上司が残業時間を管理し、職場ごとにノー残業デーやフレックス勤務制度を設けるなど、業務を効率よく計画的に進めるための仕組みを導入しています。また、きめ細かな労務管理ができるように、勤怠システムも導入しています。

*3 予防型EAP: Employee Assistance Program(社員支援プログラム)の略称。すでに不調を訴えている社員への「対処」に加え、健康な社員に対する「予防」にも重点を置き、社員が働きやすい職場をつくることで生産性を上げようとする社員プログラム。

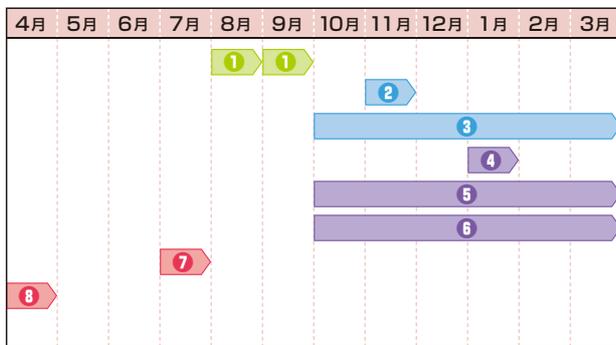
従業員とともに ～働きがいのある職場環境に(人材育成)～

リンテックグループでは、従業員の業務や能力に合わせた教育プログラムを用意し、グローバル社会にも通用する人材の育成に努めています。

■ 全社階層別研修

リンテックでは、「会社と社会の発展に貢献できる人づくり」を目指し、多様な価値観を持つ社員一人ひとりが成長と達成感を実感できる人材教育プログラムとして、全社階層別研修を導入しています。この階層別研修は、社員のスキルアップはもとより、各人の自発的なキャリア・デザインを支援するための研修体系となっています。

2011年度 階層別研修スケジュール



2011年度 研修内容*

プログラム	受講対象者
① 次世代人材育成研修(集合研修) 4～5か月の期間をかけ、重要な経営課題を集中的、継続的に議論し、戦略提言を行う。	管理職の選抜者
② 新任管理職研修(集合研修) 管理職として必要なマネジメントの知識、スキルの習得および現場における実践力を習得する。	新任課長
③ 新任管理職研修(通信研修) 管理職として必要な経営学分野の基本知識、マネジメントの知識、スキルを習得する。	新任課長
④ 新任係長研修(集合研修) 現場のリーダーに必要なマネジメントの知識、スキルを習得する。	新任係長
⑤ 4等級昇格者研修(通信研修) グループリーダーとしての職場の問題解決、部下の指導・育成、生き生きとした職場づくりなどについて体系的に理論づけて習得する。	4等級昇格者
⑥ 3等級昇格者研修(通信研修) 総合的なビジネススキルの習得を目標に科目選択で習得する。	3等級昇格者
⑦ 2年目フォロー研修(集合研修) 1年目を振り返り自分の成長を確認し、これからの取り組みを自己演習とグループ学習を通じて明確にする。	新卒2年目
⑧ 新入社員研修(集合研修) ビジネススキルと業務関連知識、自社特有スキルの基礎を習得する。社会人・職業人としての基本的な常識、職業理論等を理解する。	新入社員

* 2012年4月より新人事制度移行に伴い、階層別研修を一部変更しました。主な変更内容は、右記のとおりです。

■ 個別教育プログラム

コンプライアンスの自己チェック

リンテックでは、コンプライアンス意識の啓発を目的として、イントラネット上に「コンプライアンスに関する自己チェックシート」を掲出しています。すべての社員がこの自己チェックシートを活用し、自らの行動をチェックすることができます。今後も項目を増やし、継続的に自己チェックシートを掲出していきます。



コンプライアンス自己チェックシート

CSR説明会/情報セキュリティー教育

リンテックグループではCSR活動への認識を共有するために、2010年度からCSR説明会を適時実施しています。2011年10月には未実施だった伊奈テクノロジーセンターにおいても、情報セキュリティー教育と併せて実施し、当日は合計94人(2回実施)が参加しました。

品質教育

リンテックグループでは、従業員教育の一環としてe-ラーニングを活用しています。e-ラーニングは、就業時間帯が異なる職場などでも従業員の都合に合わせて取り組めるため、年々受講者が増加しています。2011年度は、品質にかかわるe-ラーニングを3回実施しました(平均受講率71%)。また、ISO9001や品質内部監査員などの教育を通じ、品質にかかわる基礎教育にも取り組んでいます。(海外グループ会社除く)

【新設する研修】

- 経営実践プログラム(集合研修/隔年実施)(8か月の期間をかけ、意識調査に基づく行動計画を策定し、成果発表を行う/受講対象者:9・10等級者)
- 新任部長研修(集合研修/2～3年ごと)(6か月の期間をかけ、経営的視点の熟成を意図に研修をすすめ、成果発表を行う/受講対象者:新任部長)

環境教育

リンテックでは、社員の環境に対する意識向上を図っています。2011年度は化学物質管理、省エネルギー、環境マネジメントシステムについてe-ラーニングでの学習を実施しました。また、本社ではISO14001自覚教育について、集合研修ではなく、資料をメール配信する形式に変更することで、より多くの社員が参加できるようにしています。2011年5月には今期の活動の周知を、2012年3月には目標の進捗状況の確認を目的にISO14001自覚教育を実施。また、研究所では、若手研究員を対象とした環境専門教育として化学物質管理を取り上げ、国内外の化学物質関連法規の概要について勉強会を行いました。

環境教育受講者数

開催日	対象	内容	参加者数(人)	
2011年	5月24日	本社	ISO14001の自覚教育	165
	8月1日	研究所	新人教育: 化学物質管理概要教育	21
	8月10、11日		ISO14001の自覚教育 生物多様性啓発教育	287
2012年	3月1～21日	本社	ISO14001の自覚教育	156

リンテックエコニュース

リンテックでは、環境関連法令や化学物質管理規制などについて、すべての社員により深く理解してもらうため、イントラネット上の「リンテックエコニュース」で分かりやすく情報発信しています。法令違反の事件、化学物質による事故、節電の方法、国内外の化学物質管理規制の改正状況、生物多様性保全の情報(P22参照)といった最新のトピックスから、海外を含めたリンテックグループの工場・研究所の最新エコ活動や、ISO14001の目標達成度などを掲載しています。スタートから3年目に入り、2012年3月までに紹介したニュースは延べ75件になりました。今後も社員の環境意識向上のため、情報発信を継続していきます。

技術に親しむ会

工場技術者と営業部門との技術交流を目的に、2011年11月「生産技術(新技術と生産性向上)」をテーマに、第62回「技術に親しむ会」を開催しました。この会には生産部門、営業部門からの参加者70人を含めた総勢240人が参加しました。各工場の技術担当者から、最新の生産技術や生産性向上のための取り組みが発表され、活発な意見交換とともに技術情報の共有を図りました。



自発的教育制度

自己啓発通信研修

リンテックでは希望する社員に対し、年2回の通信研修を実施しています。この通信研修は自己啓発を目的とし、規定期間内の受講修了者には会社が費用の一部を補助する仕組みになっています。通信研修の内容は経営、ビジネススキル、パソコン技能、外国語、教養、各種資格取得などさまざまです。今後も自己啓発の一助として継続していきます。

自己啓発通信研修受講者数

年度	受講者数(人)	修了率(%)
2009	413	60
2010	357	58
2011	337	61

語学研修

リンテックでは、グローバルに活躍できる社員を育成するために、2012年4月から自発的学習のサポート制度として語学研修制度をスタートしました。この制度は、海外赴任候補者のすそのを広げるもので、受講者は自薦を前提として、所属長・本部長推薦のうえ選定会議により決定されます。2012年度は11人が選ばれました。



Voice 4

日本での
環境関連学習

リンテック・インドネシア社
品質保証部門
Sugiharto (スギハルト)

2011年度から、リンテック・インドネシア社の環境調査に関する業務を担当しています。当初は、関連知識が不十分だったため、リンテック環境安全部で約3週間の研修を受けました。環境負荷物質管理や、日本と共通の環境調査の回答方法および考え方について学びました。研修で身に着けた知識を活用し、さらに積極的に業務に励んでいきます。

【2012年度で終了する研修】

●次世代人材育成研修(2012年8・9月実施予定の「第5回次世代人材育成研修」をもって終了)

【変更がある研修】

新人事制度移行に伴う等級変更により、対象が変更となる研修は以下のとおり(研修内容は変更なし)

- 2011年度/3等級昇格者→2012年度/4等級昇格者
- 2011年度/4等級昇格者→2012年度/5等級昇格者

従業員とともに ～安全な職場環境(安全防災)～

リンテックグループで働く人々が、安全で安心して働けるよう
安全意識の啓発・向上を含め、さまざまな取り組みを行っています。

労働安全

労働安全衛生方針

リンテックグループは、2010年10月に「リンテック労働安全衛生方針」を制定し、労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)*1に準拠した活動を継続運用しています。全社的に実施する活動は、安全相互監査計画や火災予防の着火事故予防パトロール計画を、工場では年度安全衛生計画をそれぞれ策定し、OSHMSによりPDCAサイクルを回しています。また、全社的な安全ルールを検討するために、工場で安全活動に従事しているメンバーと安全事務局メンバーにより、安全検討委員会を設置しています。2011年度には溶剤コーターヘッド*2の静電気管理基準やドライヤーの溶剤濃度基準を設定し、明文化しました。

[ホーム](#) > [CSR](#) > [社会性報告](#) > [従業員とともに\(安全防災\)](#)
(リンテック労働安全衛生方針/リンテック労働安全衛生マニュアルの概要)

年間安全衛生計画の策定と実施

リンテックグループでは、安全衛生活動に関する年間計画を策定し、安全確保に努めています。この計画には、パトロール計画、安全教育、訓練計画、点検・測定予定、健康診断、内部監査、マネジメントレビューなどの項目が含まれます。

2011年度は、安全相互監査、着火事故予防パトロール、トップパトロールを実施。また、各工場では工場トップ、管理職、労働組合メンバーによるパトロール、従業員による自主パトロールなどを行っています。2011年度の安全教育には、延べ1,350回、延べ9,242人が勉強会に参加しました。さらに、メーリングリストを活用し、安全衛生委員会の議事録を配信するなど、安全活動の推進に生かしています。



熊谷工場の安全パトロール

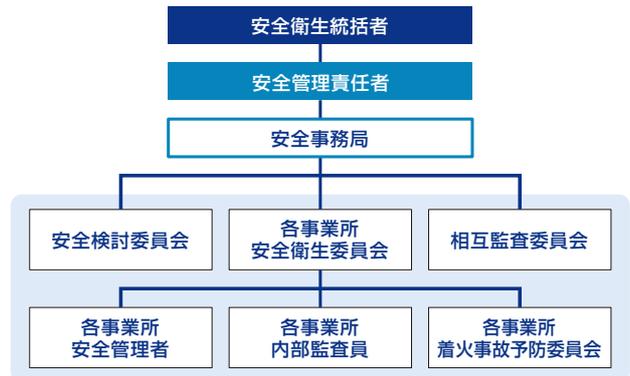
安全衛生委員会と衛生委員会

労働安全衛生法では、常時50人以上の労働者が働く事業所において、労働安全確保のために委員会設置を義務づけています。リンテックグループの対象事業所では、毎月委員会を開催し、職場の安全と衛生について協議しています。工場には「安全衛生委員会」を設置し、計画の実施や災害の発生状況、設備の点検結果、パトロール時の指摘・改善状況などが報告されます。本社や営業部門がある事業所には「衛生委員会」を設置し、健康や安全運転、防災活動などについて協議しています。これらの議事録は、全事業所や役員にもメーリングリストで配信され、情報共有される仕組みになっています。



大阪支店での衛生委員会

リンテック安全衛生マネジメントシステム組織図(本社・営業部門を除く)



休業災害

2011年度の休業を伴う労働災害(休業災害)発生件数は2件(協力会社にて発生)、休業日数は累計31日でした。安全検討委員会で検討を進め、回転体に直接触れないための治具を設置するなど、再発防止の具体的な活動により2010年度に3件発生した回転体災害*3は発生しませんでした。今後も労働災害ゼロを目指して、取り組んでいきます。(海外グループ会社除く)

休業災害の発生状況

	2009年度	2010年度	2011年度
休業災害発生件数(件)	4	3	2

*1 労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)：事業所における安全衛生水準の向上を図ることを目的とした、事業者の自主的なマネジメントシステム。

*2 コーターヘッド：コーティング剤を塗る装置。溶剤濃度や静電気により着火する可能性があり、適正な管理が必要。

*3 回転体災害：製造装置の回転体部分に巻き込まれるなどの災害。

無災害に向けた表彰制度

リンテックグループでは、不休災害を含めた労働災害のなかった事業所を対象に、連続完全無災害*4が累計で50万・75万・100万・125万時間ごとに表彰制度を設けています。しかし、1年間完全無災害であっても連続完全無災害時間が50万時間に達しない5工場(千葉工場・伊奈テクノロジーセンター・東京リンテック加工(株)・新宮事業所・小松島工場)を対象に、2012年4月1日には新たに「1年間完全無災害」の表彰制度を設けました。今後も安全に対する意識を高め、無災害を目指します。(海外グループ会社除く)



連続完全無災害50万時間を達成
(伊奈テクノロジーセンター)

連続完全無災害達成時間の状況

事業所	連続完全無災害達成時間(時間)	達成年月
熊谷工場	75万	2011年4月
吾妻工場	50万	2011年7月
	75万	2011年11月
伊奈テクノロジーセンター	50万	2011年12月
新宮事業所	50万	2012年3月

定期安全協議会の開催

熊谷工場では、社内外から毎回約100人が参加する、定期安全協議会を年3回開催しています。安全作業ルールの徹底、工事災害情報の共有、工事業者からの現場の不安全情報など、安全に関する意見の交換を行っています。また、新宮事業所でも工事業者への安全教育を実施し、2011年度は協会社16社17人が参加しました。構内および周辺での諸注意事項、新宮事業所工事安全衛生組織図、工事計画・確認シート、過去の工事業者ルール違反の事例などを説明し、意見交換を行いました。



新宮事業所での安全協議会

各生産拠点でトップパトロールを実施

リンテックグループでは、大内社長が国内外の生産拠点や研究所を視察するトップパトロールを実施しています。2011年度は13か国、27か所を回りました。国内のパトロールには、生産本部長、環境安全部長、リンテックサービス(株)の社長も同行し、安全管理の徹底を図りました。社長自らが安全面、整理整頓などの5S、職場環境などを確認することで、職場での安全や環境への意識が向上しています。



琳得科(天津)実業有限公司で視察する大内社長

災害時の危機管理

震災対応指針の配付

リンテックの安全防災・健康委員会では、国内の営業拠点に対し、「震災対応指針(絵入り)」を紹介しました。また、委員会では震災対応に関する事務所別アンケートを実施し、その結果を基に討議して各種情報を配信しています。

防災訓練

リンテックグループには有機溶剤を使用する工場があることから、防災・消防訓練の実施を強化しています。2011年度は、リンテックと東京リンテック加工(株)で、延べ2,006人が防災・消防訓練を行い、地元の消防署などから直接、消火器の扱い方や救命方法の指導を受けました。初期の消火活動が非常に重要なため、今後も継続して訓練を実施していきます。



小松島工場での消防訓練



Voice 5

災害ゼロを目指して 認証の取得

リンテック・コリア社
品質保証部 課長
韓 文鏗 (ハンムンタク)

リンテック・コリア社では2010年3月31日、労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS) 18001を取得し、ISO9001・ISO14001との統合マネジメントシステムを構築しました。その準備として、各種労働安全法規の見直しおよび従業員の安全・保健管理を効果的に行えるシステムを導入しました。災害ゼロで高品質の実現と継続的な環境改善を目指し、全従業員が協力していきます。

*4 連続完全無災害時間:各事業所で常時働いているリンテックおよび協会社の従業員を対象にした、労働災害(不休災害、休業災害、労災該当の通勤途上災害)がない労働時間の総累計。

地域社会とともに ～コミュニティ参画～

リンテックグループは、地域や社会に支えられ、その一部であることを認識し、社会との共生を図るためのさまざまな貢献活動を行っています。

リンテックグループの社会貢献活動

リンテックグループでは、さまざまな地域や社会への貢献活動を行っており、国内では主に以下のような活動を実施しています。このページでは、その一部をピックアップしてご紹介します。

- リンテックグループ全体での活動
継続的被災地支援/団体献血/美化清掃活動/ペットボトルのキャップ・使用済切手の回収
- 地域安全活動
暴走連発対セミナー/AED*1の講習会
- 障がい者支援
ふれあいコンサート/蕨市 健康福祉部 総合福祉センターの「スマイル松原」*2によるパン販売/四国中央市障害児教育支援チャリティゴルフ大会への協賛/板橋区障がい者スポーツ大会へサンバイザー提供/教育機関へのベルマーク運動の参加および障がい者支援活動
- 地域の祭事などへの協賛・支援
東吾妻ふるさと祭/原町祇園祭/宇佐八幡宮秋の祭典/浅間神社秋季例大祭/金井神社秋祭り/熊谷うちわ祭/熊谷花火大会/龍野納涼花火大会/3地区子供会六條八幡神社神輿/たつの市神岡町小那田自治会納涼祭/たつの市神岡町神岡スポーツ振興会ふるさとコンペ/土居町釣り大会/疎水感謝祭/三島町民運動会/天神祭花火大会/三島公園桜まつり/水波神社崇敬会/四国中央市土居夏まつり 花火大会/四国中央市湖水まつり/四国中央市みなと祭/三島太鼓祭り/土居太鼓祭り/そうさチューリップ祭り/納涼ふれあいまつり&花火大会/阿波踊り/板橋本町上町会祭り
- 製品の寄贈
保育園・小学校など9校へ紙製品を寄附/ひょうこ子ども・若者応援団に粘着紙残紙を寄附/西播磨青少年本部に製品端材を寄附

社会貢献活動

継続的被災地支援

リンテックグループでは、東日本大震災から1年が経過し、復興に向けた継続的支援活動として義援金の募集を行いました。2012年3月にリンテックグループ従業員から集まった義援金と同



オリジナルの募金箱とポスター



Voice 6

リンテックグループの社会貢献活動

総務・人事本部 人事部 課長 尾藤 明彦

額をリンテックが義援金として拠出する「マッチングギフト方式」を採用し、従業員からの3,055,916円の義援金にリンテックからの義援金を加え、総額6,111,832円を日本赤十字社に寄附しました。

団体献血

リンテックグループでは、日本赤十字社の献血事業への協力として全国各地の事業所において団体献血を行っています。飯田橋オフィスでは2006年度から毎年実施しており、献血が初体験の人も含め、毎回多くの参加者が集まっています。献血は、身近でできる社会貢献活動の一つとして従業員にも定着しており、今後も継続して実施していきます。



飯田橋オフィスでの団体献血

シンガポールでの地域社会に向けた活動

リンテック・シンガポール社では、社内でボランティア要員を募り、合計66人の社員が2か所の高齢者介護施設でボランティア活動を行いました。高齢者のかたの食事のサポートや、歌やビンゴゲームなどのイベントの企画、実用品のプレゼント、窓や庭の掃除の手伝いなどを行いました。施設のかたからも「高齢者の皆さんが楽しめました。ありがとうございました」と感謝の言葉を頂きました。



社員も一緒にイベント参加

リンテックグループでは、継続可能な活動、地域密着型の活動、身の丈にあった活動をテーマに、社会貢献活動に取り組んでいます。例えば、東日本大震災後の継続的支援として、震災直後と1年後の計2回、義援金を募りました。今後も、地域社会とのつながりを大切に、その一員として責任を果たすために、地域に根ざした美化・清掃活動や障がい者支援活動などさまざまな活動に取り組んでいきます。

*1 AED: Automated External Defibrillator(自動体外式除細動器)の略称。心室細動状態に陥った心臓に電気ショックを与えて正常な状態に戻す医療機器。

*2 スマイル松原: 蕨市 健康福祉部 総合福祉センターの知的障がい者通所授産施設で、雇用されることが困難な知的障がい者に対し、必要な訓練を行い、職業を紹介する施設。

美化清掃活動

リンテックグループでは、周辺地域の美化・清掃活動を定期的に実施しています。三島工場では「寒川^{さんがわ}豊岡海浜公園ふれあいビーチ」での清掃ボランティア活動に参加しました。地元企業や自衛隊員などから200人を超える参加者が集まり、空き缶や流木の回収、ゴミ拾いなどを行いました。また、工場周辺の公道などの清掃活動は、すべての工場で継続的に行っています。これからも地域の環境美化活動・清掃活動を積極的に実施していきます。



寒川豊岡海浜公園ふれあいビーチでの清掃活動

地域安全活動

2011年5月、板橋警察署にてリンテックが会長企業を務める板橋地区暴力団追放連絡会(暴追連)と板橋警察署組織犯罪対策課の共催による暴追連暴対セミナーを開催しました。セミナーには会員企業のほか、坂本 健板橋区長や警察関係者など含めた総勢71人が参加しました。また、2011年7月には当社大会議室にて、暴追連の総会を開催。今後も、暴追連および板橋警察署との連携を一層強化し、暴力団排除活動に取り組んでいきます。



暴追連がセミナーと総会を開催

障がい者支援

2012年5月、“音楽を通じて皆さんとつながる”ということを目指し、ふれあいコンサート2012「夢をつなぐJAZZ」を開催しました。2010年に第1回を開催し、今回で2回目となります。当日は、東京都板橋区在住の障がい者と介助者、近隣町内会のかたやリンテック従業員、その家族などをご招待し、ボランティアスタッフを含め総勢200人を超える参加者とともに音楽を楽しみました。これからも、参加者に喜んでいただける催しを計画的に実施していきます。



ふれあいコンサート2012「夢をつなぐJAZZ」



当日参加されたかたがた

地域の祭事への協賛

吾妻工場では、「東吾妻ふるさと祭」に毎年参加しています。2011年9月の祭りでは、恒例となった小学生以下を対象にした的あてゲームを実施。ゲームの係員は当社の従業員もボランティアで参加し、当日の祭りを盛り上げるとともに、当社製品の「虫よけdeラベル」を的あてゲームの景品として提供しました。今後も、地域住民のかたがたとの交流を大切にしていきます。



東吾妻ふるさと祭に参加した従業員

ゴーヤの「みどりのカーテン」で節電

熊谷工場では、暑い夏を涼しく過ごせ、節電効果があり環境にも優しいゴーヤのみどりのカーテンを設置しました。蒸散作用による温度低下と、建物への直射日光を遮ることによる室温低下により、想定以上の効果がありました。また、熊谷市主催の第3回「熊谷のみどりのカーテン・コンテスト」事業所の部で入賞することができました。



熊谷工場ゴーヤのみどりのカーテン

マレーシアでの地域の環境保全に向けた活動

リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社では、環境マネジメントシステムにおけるISO教育推進委員会が、地域の環境保全に向けたさまざまな活動を行っています。2011年度には、以下のような活動を行いました。

- 環境局職員を招いての社内講演会の実施。
- ペナン州政府主催の地域貢献清掃活動「Cleaner Greener Penang」への従業員参加。



- 環境意識を反映した社内環境ポスターコンテストの開催。



社会性報告

コミュニケーション

社会からの期待を知るためには、ステークホルダーとの継続的なコミュニケーションは必要不可欠です。リンテックグループは、情報発信とともに、ステークホルダーのかたがたとの対話を図っています。

■ お客様とのコミュニケーション

国内外の展示会に出展

リンテックグループでは、より多くのお客様とのコミュニケーションを促進するため、国内外で開催される展示会に積極的に出展しています。2011年度は、計36回の展示会に出展し、リンテックの製品や技術に対する貴重なご意見を頂きました。



国際総合印刷機材展「IGAS*1 2011」に出展

2011年度に出展した主な展示会

国内展示会
● IGAS 2011
● FPD*2 International 2011
● セミコン・ジャパン 2011
● エコプロダクツ 2011
● 新機能性材料展 2011

海外展示会
● Display Taiwan 2011 (台湾・台北)
● FGD*3 Expo 2011 (インドネシア・ジャカルタ)
● All China Leather Exhibition 2011 (中国・上海)
● SEMICON Taiwan 2011 (台湾・台北)
● Label Expo Europe 2011 (ベルギー・ブリュッセル)
● SEMA*4 SHOW 2011 (アメリカ・ラスベガス)
● Label Expo Asia 2011 (中国・上海)
● SEMICON China 2012 (中国・上海)
● FIMEC*5 2012 (ブラジル・ノヴァ ハンブルゴ)

活動に対する主な表彰

龍野工場

- たつの防火協会「たつの市自衛消防競技会」
消火栓の部:男子準優勝、消火器の部:女子優勝
- (社)兵庫県トラック協会「チャレンジ100運動」
品証課・生産管理課・事務課各1チーム

新宮事業所

- たつの防火協会「たつの市自衛消防競技会」消火器の部:男子準優勝

熊谷工場

- 熊谷市「第3回熊谷市みどりのカーテン・コンテスト」入賞
- (社)熊谷地区労働基準協会「優良従業員表彰」

伊奈テクノロジーセンター

- (社)埼玉県安全運転管理者協会「交通事故防止コンクール優良事業所」
- 上尾地区安全運転管理者協会「優良運転者」
- 伊奈町消防本部「伊奈町屋内消火栓操法大会」男子の部3位

リンテック・スペシャリティーズ・フィルムズ(台湾)社

- サイエンスパーク管理局「2011年度優良労工表彰活動」

リンテック・アドバンス・テクノロジーズ(台湾)社

- 高雄加工輸出区(KEPZ)管理局「清潔であり、整えられた工場環境を保有」

■ お取引先とのコミュニケーション

ITCサプライヤーズデイ開催

伊奈テクノロジーセンター(ITC)では、お取引先とのコミュニケーション活動の一環として、年1回お取引先に向けて報告会を開催し、相互理解を図っています。2011年10月は、25社53人に参加いただき、リンテックの業績、調達方針、CSRへの取り組み状況などを説明しました。また、継続的な協力体制構築のため、今回からITCの業績向上に協力いただいた2社の表彰を行いました。

■ 地域社会とのコミュニケーション

工場・施設見学の受け入れ

リンテックグループでは、毎年多くの学生、自治体、NPO、地域住民などの工場・施設見学を受け入れています。小学生の社会科見学や環境学習のほか、高校生や大学生を対象に企業説明会なども開催しています。2011年度は4事業所に合計896人が見学に訪れました。(海外グループ会社除く)



小学生による東京リンテック加工(株)の見学

 [ホーム](#) > [CSR](#) > [社会性報告](#) > [地域社会とともに](#)

■ マスメディアとのコミュニケーション

ニュースリリース・取材対応

リンテックでは、新製品情報やイベント情報などを随時、各メディアにニュースリリースとして発信しているほか、取材や原稿執筆の依頼にも積極的に対応しています。2011年度はニュースリリースが約30件、取材対応・原稿執筆は約50件でした。

 ニュースリリースの内容は、当社ウェブサイトをご覧ください。
<http://www.lintec.co.jp/>

リンテック・インドネシア社

- 西部ジャワ州ボゴール郡チレンシ警察「ボゴール郡チレンシ地区ダユール村バビ(カン)第4公立小学校の改築工事の援助および支援に対する感謝状」

マディコ社

- マサチューセッツ州商工会議所「Employer of Choice Award」製造業部門
- Industry Week マガジン「2011年ベスト工場(Best Plant)」
小企業部門セミファイナリスト16位
- 地元新聞「Boston Globe働きたい会社ベスト100(100 Best Place to Work)」
小企業部門36位

*1 IGAS:International Graphic Arts Showの略称。

*2 FPD:Flat Panel Displayの略称。

*3 FGD:The Forum Grafika Digital Expoの略称。

*4 SEMA:Specialty Equipment Market Associationの略称。

*5 FIMEC:Feira Internacional de Couros, Quimicos, Componentes e Acessorios, Equipamentos e Maquinas para Calçados e Curtumes(国際皮革・加工機器見本市)の略称。

■ 従業員とのコミュニケーション

コミュニケーションマガジンの発行

リンテックグループでは、事業内容や会社の方向性などについての理解を深め、情報を共有するために、コミュニケーションマガジン「LINTEC」を日本語版・英語版・中国語(簡体字・繁体字)版で年4回発行しています。同誌は、グループ全従業員のほか、お客様、お取引先、OB、マスコミ、官公庁などにも配付しており、経営層と従業員、従業員とステークホルダーをつなぐ身近なコミュニケーションツールとして、さらなる内容の充実に努めています。また、海外グループ会社のマティコ社やリンテック・コリア社でも、それぞれ独自の社内報を毎月PDF版で配信し、職場の相互理解や円滑なコミュニケーションに役立てています。



コミュニケーションマガジン「LINTEC」



マティコ社「INSIDE THE FILM」と
リンテック・コリア社「LK LIFE」



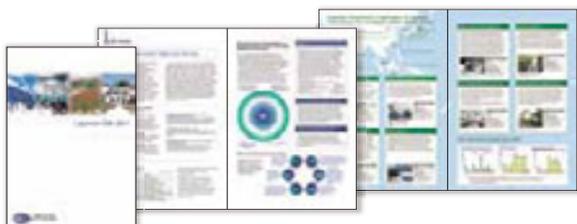
コミュニケーションマガジン
「LINTEC」英語版

CSRコミュニケーション

リンテックグループではCSRにおけるコミュニケーションとして、海外関係会社の所在地言語に翻訳したCSRレポートのPDF版を発行しています。英語版は全翻訳し、そのほか韓国語・中国語(簡体字・繁体字)・マレーシア語・インドネシア語は日本語版から抜粋し、17拠点に配付しています。さらに2011年度は、海外グループ会社従業員へのCSR説明会を開催しました(P4-5「特集」参照)。日本国内だけでなく海外グループ会社従業員とも、CSR活動の取り組みについて認識を共有しました。企業倫理、情報セキュリティ、品質・安全など、あらゆる観点からCSRの徹底を図っていきます。



リンテック・インドネシア社での説明会



国外6言語でのCSRレポートのうち、説明会で使用したインドネシア語版

■ 株主・投資家とのコミュニケーション

積極的なIR*6活動を展開

リンテックでは、適正株価の形成と企業価値の向上を目指し、さまざまなIR活動を実施しています。

国内の機関投資家・証券アナリストに対しては、年間約300件のIRミーティングや取材対応を行い、ニーズに応じて事業説明会や施設見学会も開催しています。また、海外機関投資家に対しては、国内でのミーティングや電話会議に加え、都内に海外投資家を集めて行われる証券会社主催のIRイベントへの参加や、海外投資家訪問を継続的に実施しています。2011年度は北米5都市、欧州7都市を訪問するなど、延べ100社以上とのミーティングを行いました。

また、株主・投資家の皆様にリンテックをよりよく知っていただくため、決算情報や事業戦略、製品情報などを掲載した株主通信誌を四半期ごとに発行しています。同誌では毎年、読者アンケートを実施しており、寄せられた株主・投資家の皆様の声を誌面の内容やIR活動に生かしています。



事業説明会(2011年12月実施)

ウェブサイトによる情報提供の充実

リンテックでは、ウェブサイトのリニューアルを随時行っており、情報提供の充実に努めています。2011年度はIRサイトにおいて、トップページでの株価表示の導入やイベント情報ページの新設など、ユーザビリティ*7の向上やコンテンツの充実を図り、外部から高い評価を頂きました。また、海外のかた向けに、従来の英文サイトをグローバルサイトとしてフルリニューアルしました。和文サイトとともに、今後も製品情報やIR情報などの充実を図っていきます。



IR情報は、
当社IRサイトをご覧ください。
<http://www.lintec.co.jp/ir/>



日興アイ・アール(株)
2011年度 全上場企業HP
充実度ランキング
総合37位/3,603社
業種別(その他製品)1位/107社



大和インバスター・リレーションズ(株)
2011年インターネットIR・ベスト企業賞
優良企業賞受賞

*6 IR: Investor Relations(投資家向け広報)の略称。企業が株主や投資家に向けて、経営や財務、業績などの企業情報を提供する活動。

*7 ユーザビリティ:ソフトウェアやウェブサイトの使いやすさ。

環境報告

リンテックグループでは、
企業活動と地球環境の調和を目指し、
「地球は一つ、大きな視野で快適環境に尽力しよう」
をスローガンに、さまざまな取り組みを推進しています。

環境マネジメントシステム

リンテックグループは、国際標準規格であるISO14001に基づいた環境マネジメントシステムを構築しています。また、環境問題のグローバル化やグループ会社の海外展開に対応したリンテックグループ品質・環境方針を制定し、事業活動における環境負荷低減に向けたさまざまな取り組みを行っています。

■ リンテックグループ品質・環境方針

グローバルな環境活動を推進するためには、品質と環境を統合した活動が求められます。リンテックグループでは従来の「リンテック環境憲章」と「リンテック品質方針」を統合し、2012年4月1日に「リンテックグループ品質・環境方針」を新たに制定しました。

リンテックグループ品質・環境方針

● 基本方針

リンテックグループ全社員は社是「至誠と創造」および経営理念に徹し、あらゆる社会的責任を果たすべく、公平正大かつ革新的な企業活動を実践する。これらの具体的活動を実践するため、以下に「品質方針」「環境方針」「行動指針」を定める。

● 品質方針

「ものづくり」の原点に立ち、「品質」「環境」「安全」を基本とした製品開発・製造・販売に努め、あらゆるステークホルダーから信頼される事業活動を徹底する。

(行動指針)

1. 国内外の法令・規制を遵守し、生活環境・地球環境に貢献する。
2. 異なる文化・地域と調和できる「人材」「企業文化」を育て、より良い品質で世界に貢献する。
3. 「ものづくり」を通して顧客ニーズを迅速・的確に把握し、共有する。
4. 「ものづくり」を通して常に現状分析を行い、継続的な改善活動を徹底する。
5. より良い製品を適正価格で安定的に提供するために、日常のサービス・業務の改善・改革を推進する。
6. デザインレビューの徹底により、開発段階から品質のつくり込みを行う。
7. 製造・品質管理などあらゆる面で統計的手法を取り入れ、データの評価・管理体制を強化する。
8. 独創的な「ものづくり」ができる企業人を育成するために、体系的な社内教育システムを構築する。

● 環境方針

地球の豊かな自然とこれらの社会を次世代に引き継ぐために、環境に配慮した製品づくりを優先し、地球環境保全に積極的に取り組む。

(行動指針)

1. 国内外の法令・規制を遵守し、グローバルな環境保全に努める。
2. 環境に配慮した製品の開発に努める。
3. 地球資源の有効活用を推進し、3R(Reduce・Reuse・Recycle)に努める。
4. 生物多様性の保全に努める。
5. 環境の改善には積極的に取り組みPDCAを回して継続的な活動に努める。

1992年4月10日 環境憲章制定

1998年8月10日 品質方針制定

2012年4月1日 品質・環境方針制定

リンテック株式会社 代表取締役社長 大内昭彦

■ 環境マネジメントシステム統合認証の取り組み

リンテックグループでは、ISO14001に基づいた環境マネジメントシステムの統合認証取得の取り組みを2006年3月からスタートし、本社、国内10工場、研究所および東京リンテック加工(株)を統合し運用しています。2010年5月に琳得科(蘇州)科技有限公司、2011年3月に琳得科(天津)実業有

限公司、2012年3月にリンテック・インドネシア社、リンテック・コリア社、リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社の3社を統合しました。引き続き、海外グループ会社のグローバル統合認証取得*1を進め、地球環境の保全に尽力していきます。

■ 内部環境監査の実施

リンテックでは、環境マネジメントシステムの適切な運用とサイト間の運用レベルを平準化するため、サイト内部監査やサイト相互監査を実施しています。また、ISO14001審査員補や内部監査員の養成を行っています。現在、グローバル統合認証取得済みの海外サイトではサイト内部監査を実施していますが、将来的には海外サイトを含めたグループ全体でサイト相互監査を実施していきます。



伊奈テクノロジーセンターにおける
サイト内部監査

■ 環境コンプライアンス

リンテックグループの事業活動にかかわる環境関連法令は多岐にわたっています。各分野における法令を遵守するために、各サイトの環境管理部門は法令改正などの把握・対応に努めています。2011年度は全社環境管理事務局による国内全サイトの法令監査を行い、法令遵守状況を確認しました。また、法令遵守については、国内および海外各サイトの環境マネジメントシステムに取り込み、定期的に状況を監視しています。

生物多様性保全の情報を発信

リンテックでは、「リンテックエコニュース」を通じて、生物多様性の背景や定義などを紹介し、社員の理解を深める啓発活動を行っています。2012年度も情報発信を継続していきます。

「リンテックエコニュース」にて生物多様性の情報を発信



*1 グローバル統合認証取得:世界中にある複数の事業所を一つの組織体としてまとめ、ISO14001の認証を取得。

環境対応製品の開発

リンテックグループは、ものづくりを担う企業の責任として、環境負荷低減を指向した製品の開発に力を注いでいます。また、設計段階からLCA*2を参考に資源採取・原材料調達から製造過程、廃棄までを含めた環境負荷低減に努めています。

■ 環境配慮型製品のガイドライン策定と運用

リンテックでは、2010年2月に環境配慮型製品のガイドラインを策定しました。このガイドラインは、設計段階においてLCAを参考にし、原材料の資源調達から製品の製造・廃棄までのライフサイクルにおける環境負荷を評価しています。2011年度は、LCA基準に基づき15件の開発を行いました。今後は、このガイドラインに沿って、より環境負荷の少ない製品開発を推進します。

■ 環境負荷低減に役立つ製品の開発

リンテックグループでは、環境・エネルギー分野を製品開発の重点テーマの一つと位置づけています。主な製品として、高い断熱性で節電・省エネルギーに貢献するウインドーフィルムや、太陽電池の耐久性を高めるバックシートなどがあります。今後も環境配慮型粘着剤や次世代型太陽電池向け新規部材など、環境負荷低減と省エネルギーに役立つ製品の開発に力を注いでいきます。

空調効率を向上させる建物用ウインドーフィルム

リンテックは、節電・省エネルギー効果やガラス飛散防止対策効果を備えた建物用ウインドーフィルムのブランド名を、2012年4月に「ウインコス」に統合。省エネルギーに貢献する製品として、一層の普及を目指しています。「ウインコス」ヒートカットは、可視光線透過率が73%以上と高い透明性を保ちながら優れた日射調整効果を実現。また、紫外線を99%カットし、ガラス飛散防止対策効果も兼ね備えています。



建物用ウインドーフィルム施工例

環境配慮型粘着剤を採用したラベル素材

化粧品やボトル容器に使用されるラベルは、そのほとんどに強粘着タイプの粘着剤が使用されており、きれいにはがしにくいという課題がありました。これを解決するため、リンテックでは、きれいにはがせるラベル素材の新ブランド「REPOP」シリーズを立ち上げました。その第一弾として、2012年6月に販売を開始した製品では、ラベル素材に強粘再剥離タイプの新規粘着剤を採用しています。これは使用時には高い粘着性を持ちつつも、きれいにはがすことができ、プラスチック容器のリユースやリサイクルに対応した製品となっています。また、粘着剤には有機溶剤を使用しない水系エマルジョン*3型を採用しているため、環境負荷物質の低減に貢献しています。



のり残りが少なく、きれいにはがせる粘着剤を採用

太陽電池を支えるモジュール用バックシート

太陽電池に使用されるバックシートは、太陽電池の裏面を保護し、モジュールの軽量化や安全性、信頼性の向上にかかわる重要な素材です。リンテックの「リプレアシリーズ」は、高度な複合材製造技術で積層された構成で、独自設計により長期間の屋外使用に対応しています。自然エネルギーの有効活用のため、太陽電池をサポートする「リプレアシリーズ」の普及を推進していきます。



太陽電池モジュール用バックシート「リプレアシリーズ」

Voice 7



排ガス処理装置(RTO*4式)新設

琳得科(蘇州)科技有限公司
工務科係長 張 旭東 (ザン・シートン)

近年、中国における環境規制の強化を背景に、排ガス処理装置は必須条件とされています。琳得科(蘇州)科技有限公司では、2012年6月に粘着塗工機増設に伴い、排ガス処理装置(RTO式)を新設しました。当該装置では低ガス濃度の局所排気をドライヤー給気ラインに取り込み、ドライヤー排気として一緒に処理できるよう工夫しています。

*2 LCA: Life Cycle Assessmentの略称。製品のライフサイクル全体を通じて投入されるエネルギーや水、原材料の量や排出されるCO₂、有害化学物質などを算出し、環境への影響を総合的に評価する手法。

*3 エマルジョン: 乳濁液や乳剤ともいわれる。水と油のような混ざり合わない液体について、一方が粒状になって他の液体の中に分散した状態。

*4 RTO: Regenerative Thermal Oxidizerの略称。蓄熱燃焼式脱臭装置ともいわれ、VOCや臭気などを高い効率で燃焼分解する装置。

地球温暖化防止

リンテックグループは、事業と環境との調和を重視し、素材メーカーとして環境負荷の低減を基本に置いた事業活動を推進しています。製造および物流の両面からCO₂(二酸化炭素)排出量削減に向けたさまざまな活動を行っているほか、さらなる節電・省エネルギーに努めています。

■ 製造における取り組み

省エネルギー法への対応状況

国内リンテックグループ*1全体でのエネルギー使用量は、原油換算で年間1,500kℓを超えています。そのため、2010年10月に「エネルギーの使用の合理化に関する法律(略称:省エネ法)」の規程に基づき、特定事業者の指定を受け、エネルギー原単位を年1%改善することが求められます。

2011年度における国内リンテックグループの省エネルギー活動は、待機電力削減などのオフィスにおける取り組みから、排熱の回収利用などの事業所全体で取り組む案件まで、さまざまな施策を実施しました。その結果、エネルギー総使用量は2010年度と比べて3.8%減少しました。

省エネルギー推進委員会

さらなる省エネルギーの取り組みを強化するため、2012年1月から国内リンテックグループ内の活動組織である省エネルギー推進委員会が、エネルギー管理指定工場*2を中心に、エネルギー管理に関するパトロールを実施しています。各工場は同委員会から改善点の指摘を受けることで、今後の省エネルギー活動の改善へつなげていきます。



省エネルギー推進委員会による吾妻工場のパトロール

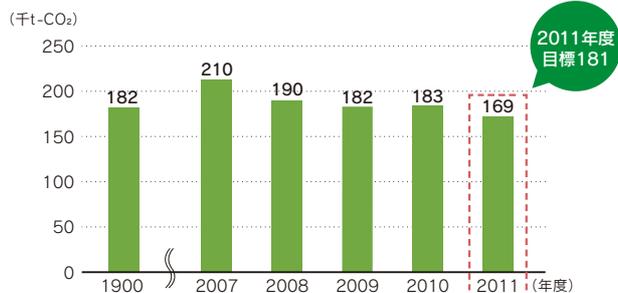
埼玉県地球温暖化対策推進条例*3への対応

埼玉県地球温暖化対策推進条例は、2012年3月で運用開始から2年が経過しました。対象は熊谷工場、研究所、伊奈テクノロジーセンターで、大規模事業所(原油換算エネルギー使用量1,500kℓ以上/年)である熊谷工場と研究所は、2011年4月に自主設定したCO₂排出量削減目標値(2011年4月から2014年3月までに、年平均で熊谷工場は6%、研究所は8%削減)の達成に向けて、省エネルギー、CO₂削減の取り組みを進めています。熊谷工場では、すべての燃料転換が完了し、今後は排熱の回収を中心に改善を進めていきます。また同工場において2012年度は「製造部署が生産現場で進める省エネ」をテーマに、エネルギー監視設備の充実と各現場にエネルギーの使用状況を表示する設備の導入を進める予定です。

CO₂排出量・エネルギー総使用量

国内リンテックグループにおける2011年度のCO₂排出量は169千tで、2011年度の目標(排出量181千t以下)を達成しました。一方で、エネルギー総使用量(原油換算)は、2010年度に比べ、3.8%減少し、96千kℓとなりました。2011年度は従来の省エネルギー活動に加え、2011年3月の東日本大震災を発端とした電力不足による節電要請への対応(待機電力カット、空調管理など)と、生産需要の減少によるエネルギー総使用量の減少がありました。しかし、エネルギー原単位は生産量減の影響で2010年度より0.01kℓ/t増え0.37kℓ/tとなりました。

CO₂排出量



- 注) 1.CO₂排出量は、電力・燃料使用量におおののCO₂排出係数を乗じて算出しています。
 2.CO₂排出係数は、2005年度以前は地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第3条第1項で定める排出係数の2002年12月改正値を使用しています。2006~2008年度は、同施行令で定める排出係数の2006年3月改正値を使用し、購入電力の使用にかかる排出係数には、当該施設に電力を供給している電力会社の排出係数を使用しています。2009~2011年度は、同施行令で定める排出係数の2010年3月改正値を使用し、購入電力の使用にかかる排出係数には、当該施設に電力を供給している電力会社の実排出係数を使用しています。
 3.上記排出量は、化石エネルギー起源の燃料によるCO₂排出量です。

エネルギー総使用量(原油換算)



- 注) 燃料とは、灯油、A重油、LNG、LPG、都市ガスです。

*1 国内リンテックグループ:リンテック(株)およびリンテック(株)の営業拠点、東京リンテック加工(株)、大阪リンテック加工(株)、プリンテック(株)、リンテックサービス(株)、リンテックコマース(株)、(株)レンリ

*2 エネルギー管理指定工場:省エネルギー法において、原油換算のエネルギー使用量が1,500kℓ/年以上の工場等が指定される。

*3 埼玉県地球温暖化対策推進条例:埼玉県において事業所等の地球温暖化に対する取り組みを定めた条例。

CO₂排出量削減の取り組み/LNGへの燃料転換

リンテックは、2006年度から2010年度までの5年間で、従来は重油・灯油を燃焼して蒸気を生産させていたボイラ設備の燃料を、CO₂排出量がより少ない都市ガスやLNG(液化天然ガス)への転換を進めてきました。2011年1月に実施した吾妻工場の第2期燃料転換工事完了をもって、リンテックの国内工場におけるボイラ設備燃料転換は完了しました。これまでの燃料転換により、約39千t/年のCO₂の排出量削減につながりました。今後は、排熱の有効利用やボイラの効率運転などの省エネルギー活動を通じてCO₂排出量の削減に取り組んでいきます。



三島工場のLNGサテライト設備

CO₂排出量削減の取り組み/土居加工工場

土居加工工場では2012年2月、排ガス処理装置(RTO式)に、揮発性有機化合物(VOC)の処理で発生した熱を利用して蒸気を生産させる排熱ボイラを設置しました。RTOに入ったVOCガスは、内部の蓄熱体から熱を与えられ燃焼(無害化)し、大気放出されます。その際、燃焼に不要な余剰熱も大気放出されていましたが、それを再利用し蒸気を生産させることでLNG使用量360t/年、CO₂排出量975t/年の削減につながります。なお、生産状況で蒸気発生量が変化するため、RTOの運転負荷を見直し、継続して省エネルギー活動を推進していきます。



土居加工工場の排熱ボイラ

照明用電力の削減/琳得科(蘇州)科技有限公司

琳得科(蘇州)科技有限公司では、既設の天井高のある部屋については高圧ナトリウムランプを採用していましたが、省エネルギーと照度安定化および発火防止を考慮し、LED照明への更新を実施しました。また、増設部である第2工棟倉庫部分においては、建設当初からLED照明を採用しました。



LED照明化した場内

物流における取り組み

リンテックは物流・運輸部門を保有していませんが、省エネルギー法の定める特定荷主(委託貨物輸送量3,000万トンキロ/年以上)となっています。同法では特定荷主にも輸送にかかわるエネルギー効率の向上を求めており、輸送にかかわるエネルギー効率化の計画を提出(年1回)しています。2011年度の輸送によるCO₂排出量は10.9千tとなり、前年度比で約7.6%減少しました。2006年度比では約25.9%減少しています。エネルギー使用量は4,085kl(原油換算)となり前年度比で約8%減少し、エネルギー使用量原単位(売上高当たり)は0.0252kl/百万円で前年度と同等でした。地球温暖化防止の観点からも、輸送効率向上や工場間輸送積載効率の改善、幹線輸送の配送ルート・方法の工夫、輸送頻度の見直しなどを継続して進めています。

[WEB](#) ホーム>CSR>環境報告>地球温暖化防止(エネルギー使用量)

CO₂排出量と輸送量



Voice 8

三島工場の省エネルギー活動

常務執行役員 生産本部副本部長
兼 三島工場長

武村 清次

三島工場では、エネルギーの無駄を見付けるために、製造現場などで工場内通信ネットワークを利用したエネルギーの見える化を図っています。瞬時値の監視と積算値の管理により最適なエネルギーシステムの構築を行い、生産時だけでなく非生産時のエネルギー削減にも取り組んでいます。また、蒸気ドレンや廃熱の回収などをさらに進め、エネルギー利用の効率化により、原単位の改善に努めています。

廃棄物の削減

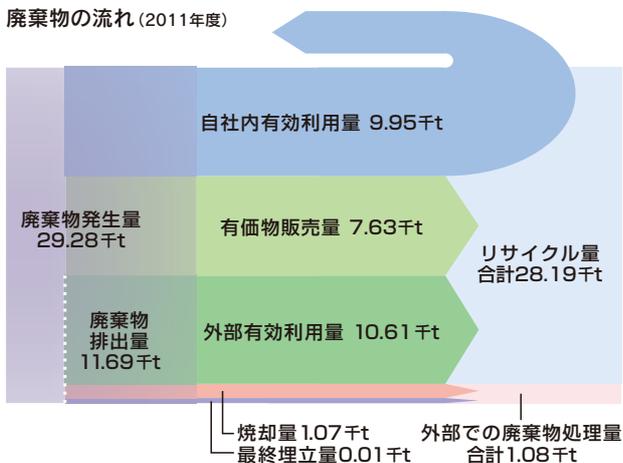
リンテックグループでは、循環型社会の実現に向けリデュース、リユース、リサイクルの3Rについても積極的に取り組み、資源の有効利用や廃棄物の削減を常に心掛けています。

■ 廃棄物の発生量と有効利用量

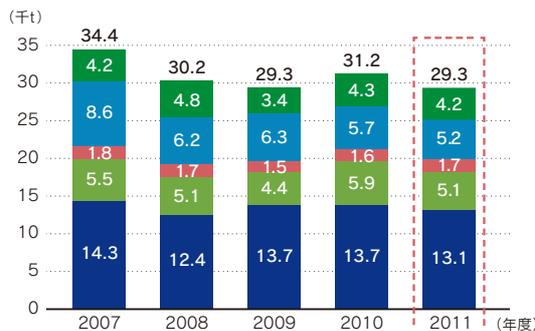
2011年度の製造ロスを含めた廃棄物発生量は29.28千tで、生産量の減少と生産歩留まり向上により前年度から約1.90千t減少しました。廃棄物排出量(廃棄物発生量-自社内有効利用量-有価物販売量)は11.69千tで、2010年度から約3.3%減少しました。このうち、10.61千tは外部で有効利用され、それ以外の1.08千tは廃棄物処理業者に委託し、適正に焼却処分(1.07千t)、埋立処分(0.01千t)しました。2011年度の最終埋立比率*1は約0.03%となり、目標である0.2%以下を達成しました。2007年度から引き続きゼロエミッション*2を達成しています。今後は、ゼロエミッションの維持はもちろんのこと、廃棄物の最終埋立量のさらなる削減を推進します。

なお、2011年4月1日に施行された改正廃掃法において、廃棄物処理施設における維持管理情報の公表が義務づけられました。焼却炉がある熊谷工場は廃棄物処理業の認可を受けており、地域住民などの求めに応じて維持管理情報の閲覧開示を行っています。

廃棄物の流れ (2011年度)



廃棄物発生量



■ 3Rの取り組み

リデュースの取り組み

リンテックグループ各工場の製造部門では、廃棄物の発生を抑制するため、歩留まりの向上を図っています。

リユースの取り組み

リンテック製品の多くはロール状で製造されるため、各工程において巻芯が使用されます。巻芯は製品とともに運搬されますが、一部は回収して工程内でリユースしています。また、製品の運搬に使用されるプラスチックパレットの一部についても、回収してリユースしています。

リサイクルの取り組み

リンテックグループでは、2011年度も引き続きマテリアルリサイクル*3とサーマルリサイクル*4に取り組んでいます。龍野工場と熊谷工場では、マテリアルリサイクルに不向きな紙系廃棄物を固形燃料としてサーマルリサイクルしています。また、リンテック・インダストリーズ(サラワク)社では、裁断時に発生する断材をリサイクル業者に有価物として売却するなど、各工場が発生する廃棄物を再生資源として利用しています。



固形燃料

龍野工場におけるパレットのリユース

龍野工場では、これまでお取引先より返却された木製パレットの選別をパレットメーカーに委託していましたが、再利用可能なものと再生処理が必要なものに分別することで新規パレットの購入を削減することができました。また、さらなる削減対策として、使用するパレットをリユース性の高い樹脂製に変更する取り組みも行っています。今後は現在のリユース率(約25~30%)をさらに高めていくことを目指します。



再利用するため分別作業を実施している龍野工場のパレット集約場所

*1 最終埋立比率: 次式で求められる数値。

最終埋立比率=最終埋立量/廃棄物発生量×100

*2 ゼロエミッション: リンテックでは、最終埋立比率が1%以下であることが基準。

*3 マテリアルリサイクル: 古紙を再生紙の原料に、空き缶を金属材に、ペットボトルを化学繊維材料にするなど、廃棄物を原料として再利用。サーマルリサイクル以外のリサイクル。

*4 サーマルリサイクル: 廃棄物を単に焼却するのではなく、熱や電力として回収したり、燃料にするなど、エネルギーとしての再利用。

用水使用量の削減と排水対策

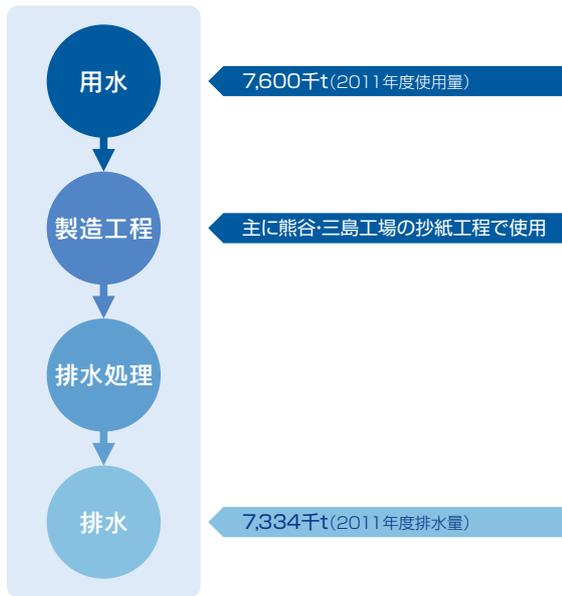
リンテックグループでは、水は限りある資源であるとの観点から、各工場における節水と回収水の再利用に努めています。また、周辺環境に与える影響を抑えるため、排水基準の遵守とともに、排水水質にも十分に注意を払っています。

■ 用水量と節水対策

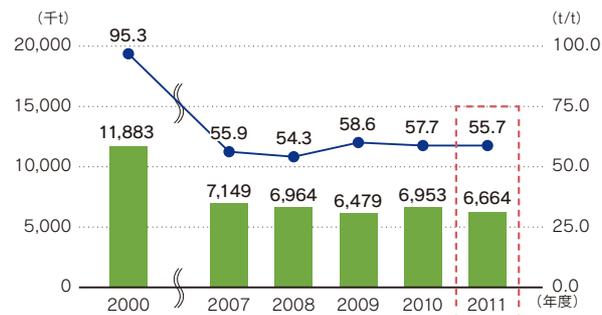
リンテックにおける2011年度の用水量は7,600千tでした。このうち約88%を製紙部門がある熊谷工場と三島工場で使用しています。両工場の2011年度における用水量は6,664千tとなり、前年度比で約4%減少しました。これは、生産量の減少ならびに用水量の削減効果によるものです。また、2011年度における両工場の用水原単位(紙生産量当たり)は、55.7t/tでした。これは、2010年度と比較し2.0t/tの減少となっています。

節水対策としては、製紙部門において各工程で用水量を削減しています。さらに漏水対策を施し、用水の使用量削減に努めています。また、回収水の再利用による用水と排水の削減を図っています。

用水使用から排水までの行程



用水使用量(熊谷工場・三島工場) ■ 使用量 ● 原単位(用水量/紙生産量)



*5 SS: Suspended Solid(浮遊物質)の略称。水中に懸濁し、水の濁りの原因となる物質。
*6 COD: Chemical Oxygen Demand(化学的酸素要求量)の略称。水中の被酸化性物質を酸化するために必要な酸素量。

■ 排水量削減と排水水質の改善

リンテックにおける2011年度の排水量は7,334千t/年でした。その約89%(約6,527千t)が熊谷工場と三島工場からの排水となっています。製紙工程における排水水質の維持向上のため、歩留まり向上剤の変更によるSS*5の低減や、クリーナーのリジェクト管理による原料流出量の減少に努めています。また、COD*6や窒素などの水質管理においては、基準値よりも低い社内基準を設定し、より厳しい管理を行っています。



熊谷工場の排水処理設備

2011年度 排水水質
熊谷工場

項目	排水基準	実績		
		最大値	平均値	
pH	5.8~8.6	6.7~8.5	7	
濃度規制	SS(mg/l)	60(50)以下	30	13
	BOD*7(mg/l)	20以下	19	9
	COD(mg/l)	-	34	19
総量規制	COD(t/日)	0.858以下	0.163	-
	窒素(t/日)	0.4068以下	0.1888	-
	リン(t/日)	0.0418以下	0.0117	-

三島工場

項目	排水基準	実績		
		最大値	平均値	
pH	5.8~8.6	6.1~7.7	7	
濃度規制	SS(mg/l)	80(60)以下	35	5
	COD(mg/l)	90(65)以下	79	25
総量規制	COD(t/日)	0.9431以下	0.5500	-
	窒素(t/日)	0.3961以下	0.1998	-
	リン(t/日)	0.0405以下	0.0032	-

注) 1.排水基準の()内は日間平均値。各工場の規制は以下によります。
 <熊谷工場>
 BODについては熊谷市との協定値を、pH、SS、COD(総量規制)、窒素、リンについては埼玉県的生活環境保全条例、告示に基づく規制値を示しています。
 <三島工場>
 pH、SS、COD(濃度規制)は水質汚濁防止法に、COD(総量規制)、窒素、リンは愛媛県の告示に基づく規制値を示しています。
 2.実績の最大値の欄:pHについては最小値~最大値を、総量規制については総量を掲載しています。

*7 BOD: Biochemical Oxygen Demand(生物化学的酸素要求量)の略称。微生物が水中の有機物を分解する時に消費する酸素量。

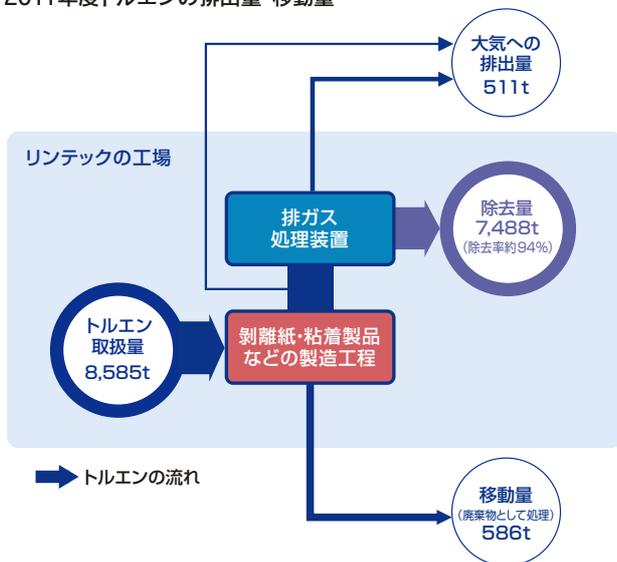
環境負荷物質の削減

リンテックグループでは、国内外における関連法令や各種規制を遵守し、環境に負荷を与える化学物質の削減に努めています。

PRTR*1への対応

リンテックが2011年度に届け出たPRTR対象物質は7物質で、総取扱量は8,667tでした。取扱量が最も多かった物質はトルエンで、その取扱量は8,585tとなり、前年取扱量(9,107t)より522t減少しました。トルエンの大気への排出量は511tで2011年度排出量(555t)より44t減少し、移動量は586tで前年度(638t)より52t減少しました。

2011年度トルエンの排出量・移動量



注) 除去率 = 除去量 / (取扱量 - 移動量) × 100

EUにおける各種規制への対応

EUの化学物質規制であるREACH規則*2において、情報伝達の義務があるSVHC(高懸念物質)の認可対象候補物質が2011年6月に7物質、2011年12月に20物質、さらに2012年6月に13物質が新たに確定され、合計で84物質となりました。リンテックでは、調達品について環境負荷物質含有調査を実施し、必要な情報についてはお客さまに情報伝達を行っています。また、認可対象候補物質含有製品については、一部の認可対象候補物質排除の対応を進めています。CLP規則*3についても届け出手続きを行い、2015年6月1日までの段階的な実施に合わせCLP規制対応のMSDS*4改定を進めています。また、有機スズ化合物規制*5については社内方針を定め、禁止対象物質含有製品の改良(含有物質の削減や排除)や一部製品の販売禁止などの対応をしています。

PCB*6の適正保管・管理

リンテックでは、PCBを含む廃棄物を適正に保管・管理しています。2011年度は三島工場保管の19台について処理が完了しました。なお、龍野工場の電気機器を検査したところ、低濃度PCB混入機器に該当することが判明し1台追加しました。

2011年度PCBの適正保管・管理状況

事業所名	PCB廃棄物保管台数(台)	処理施設	委託処理登録年度	処理完了予定
		日本環境安全事業(株)		
三島工場	0	北九州事業所	2005	2011年度完了
吾妻工場	1	低濃度廃棄物のため未定	未定	未定
熊谷工場	22	東京事業所	2005	2012年度以降
龍野工場	1	低濃度廃棄物、蛍光灯安定器のため未定	未定	未定
	6	大阪事業所	2006	2012年度以降
東京リンテック加工(株)	8	東京事業所	2005	2012年度以降

注) 1. 2011年度までの報告において、龍野工場のPCB廃棄物の報告で委託処理登録年度を2006年度と記載していましたが、保有しているPCB廃棄物は低濃度廃棄物および蛍光灯安定器のため処理方法は未定となります。
2. 低濃度PCBは日本環境安全事業(株)では処理を行わないため、民間を含めた委託処理先への登録を予定しています。
3. 熊谷工場において、2011年度に20台と報告していましたが、22台の誤りでした。
4. 東京リンテック加工(株)において、2011年度に7台と報告していましたが、8台の誤りでした。

化学物質管理の状況

リンテックでは原材料の化学物質管理において、規制対象となる化学物質の増加に伴い「環境負荷物質含有調査対象一覧表」を2012年3月に更新、原材料などの環境負荷物質含有調査を実施し管理しています。また、製品については労働安全衛生法に基づき、対象製品におけるMSDSのGHS*7対応への準備を進めています。

災害や化学物質の漏洩事故などを想定した訓練

リンテックグループの各工場では、緊急事態を想定した訓練を実施しています。小松島工場では、地震発生を想定した避難訓練や、場内排水管への薬品漏洩を想定した訓練を通し、緊急時の対応について検証しました。また、三島工場ではLNGガス漏れ対応の訓練を、龍野工場ではトルエン漏洩に対する訓練を実施しました。



小松島工場における訓練の様子

*1 PRTR: Pollutant Release and Transfer Register(化学物質排出把握管理促進法に基づく(化学物質の排出移動量届出制度)の略称。化学物質の排出量・移動量に関するデータを把握・集計し、公表する仕組み。

*2 REACH規則: EUの化学物質規制で、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規制の略称。EU諸国への化学物質を年間1t以上輸出する

場合に登録が必要。また、製品中に認可対象候補物質に該当する化学物質を0.1%以上含有する場合は届け出が必要。

*3 CLP規則: Classification, Labeling and Packaging of substances and mixtures(物質および混合物の分類、ラベル、包装に関する規則)の略。

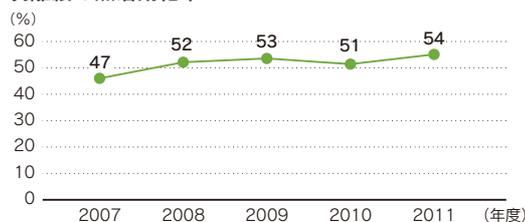
*4 MSDS: Material Safety Data Sheetの略。化学物質の成分や性質・毒

VOC(揮発性有機化合物)の削減

無溶剤化率の推移

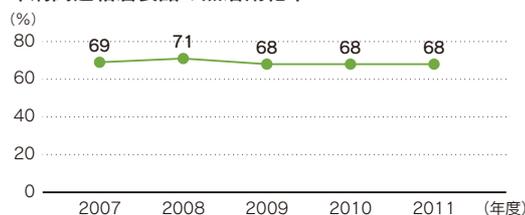
リンテックでは有機溶剤使用量の削減を図るため、剥離紙に用いる剥離剤と印刷関連粘着製品に用いる粘着剤の無溶剤化に取り組んでいます。2011年度の剥離紙の無溶剤化率(生産量ベース)は54%で、2010年度から3%増加しました。また、印刷関連粘着製品の無溶剤化率(販売量ベース)は68%で、2010年度と同等でした。VOC削減の推進は、処方面と排ガス処理設備面の両面から対策を推進してきました。無溶剤化へ切り替え可能な製品は、主要なものは完了しており、排ガス処理装置の設置も完了していますが、今後も環境保全活動の一環として数値の把握を行ってまいります。

剥離紙の無溶剤化率



注) 剥離紙の無溶剤化率=無溶剤型剥離紙の生産量/剥離紙の全生産量×100

印刷関連粘着製品の無溶剤化率



注) 印刷関連粘着製品の無溶剤化率=無溶剤型印刷関連粘着製品の販売量/印刷関連粘着製品の全販売量×100

環境会計

リンテックでは、環境会計によって環境保全コストおよび効果の把握に努め、環境保全活動を効果的かつ効率的に推進しています。

集計の考え方

- 1.集計範囲:リンテック(株)および東京リンテック加工(株)とし、そのほかの関係会社は含んでいません。
- 2.集計対象期間:2011年4月1日~2012年3月31日
- 3.参考ガイドライン:環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」

2011年度 環境保全コスト

(単位:百万円)

分類	対象となる設備	投資額	主な取り組みの内容	費用額	
1.事業エリア内コスト	① 公害防止コスト				
	a.大気汚染防止	排ガス処理設備	177	大気汚染防止設備維持管理	582
	b.水質汚濁防止	排水処理設備	13	水質汚濁防止設備維持管理	102
	c.公害防止	-	-	PCB処理費用、スラッジ処理費	19
	② 地球環境保全コスト				
	a.地球温暖化防止	燃料転換関連設備	12	燃料転換	206
b.省エネルギー	コージェネレーション設備・太陽光発電システム	58	自家発電設備維持管理	406	
2.上・下流コスト	③ 資源循環コスト				
	a.資源の効率的な利用	損紙処理設備など	18	古紙処理設備維持管理	302
	b.廃棄物の減量化・削減・リサイクル	製紙スラッジ乾燥装置	14	焼却炉ボイラ設備維持管理、廃棄物処理	374
	① 副資材の回収・再生・再使用	-	-	パレット、紙管の回収・再生・再使用など	16
3.管理活動コスト	② グリーン調達・グリーン購入	-	-	環境配慮型事務用消耗品の購入	4
	① 環境教育	-	0	セミナー、講習会への参加など	0
	② 環境負荷の監視・測定	大気・水質の監視・測定装置	-	製品、大気、水質の分析	30
	③ 環境管理システムの構築・認証取得	-	-	ISO14001審査、森林認証	5
	④ 環境保全対策組織運営	-	-	環境保全の運営	309
4.研究開発コスト	⑤ 環境情報開示	-	-	CSRレポート作成、エコプロダクツ出展など	27
		-	-	環境保全に関する研究開発	354
5.環境改善コスト	-	-	構内美化	3	
6.環境損傷対応コスト	-	-	汚染負荷量賦課金の負担	38	
合計	-	292	-	2,777	

注) 排ガス処理設備投資額には、予備品・雑工事費を含みます。

WEB ホーム>CSR>環境報告>環境会計(環境保全効果)

性・取り扱い方などに関する書類。
 *5 有機スズ化合物の規制:EUでは以前から有機スズ化合物を規制していたが、2009年6月に製品に含まれる有機スズ化合物の規制をさらに強化し、2010年7月からは随時施行。
 *6 PCB:ポリ塩化ビフェニルの略称。(PCBを含む廃棄物については、PCB特別措置

法(ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法)により、その適正な保管・管理・処理が義務づけられている。)
 *7 GHS:Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicalsの略。世界的なルールに従って、化学物質を危険有害性の種類と程度により分類し、ラベル表示や安全データシートを提供するシステム。

海外グループ会社8社の環境保全活動

リンテックグループでは、グローバル企業としての責任を果たすために、海外グループ会社における環境保全活動にも力を注いでいます。



1 琳得科(蘇州)科技有限公司

中国蘇州市環境保護局から、工場内での火災消火廃水(消火栓3時間放水など)や溶剤の工場外への流出防止のために緊急廃水貯水槽を新設するよう指導があり、第1、2工棟に1基ずつ410m³の貯水槽を新設しました。中国では排水に対する水質規制が強化され、今まで以上の排水処理が求められています。



流出防止用緊急廃水貯水槽工事

会社概要

所在地: 中国江蘇省蘇州新区
従業員数: 220人(2011年12月31日現在)
主な事業内容: 印刷材・産業工材および加工材関連製品の製造販売

2 琳得科(天津)実業有限公司

2012年4月13日に地元消防署による消防知識トレーニングと放水演習に参加しました。これは同じ工業団地内10社と、ほかの工業団地18社が合同で実施したものです。今後もこれらの活動に参加することで地域との交流を図り、よりよい協力体制を築くことに努めていきます。



天津工場敷地内で実施した消防実技

会社概要

所在地: 中国天津市南開区
従業員数: 237人(2011年12月31日現在)
主な事業内容: 印刷材・産業工材関連製品の製造販売

3 リンテック・スペシャリティー・フィルムズ(台湾)社

2010年度からVOC自動監視測定装置を導入し、行政院環境保護署への年1回の報告を継続実施しています。廃棄物については生産工程での歩留まり向上による発生量の削減、分別による再資源化を実施しています。2012年度は照明のLED化を進め、電力使用量削減に取り組んでいます。



回収用に分別された廃棄物

会社概要

所在地: 台湾台南市善化区
従業員数: 96人(2011年12月31日現在)
主な事業内容: 電子・光学関連製品の製造販売

4 リンテック・コリア社

リンテック・コリア社では、電力使用量が最も多い夏期の冷凍機電力使用量を削減するため、ピーク電力監視装置を導入しました。また、設定ピーク電力量を超えないよう空調設備に優先順位をつけて調整した結果、2011年度の電力料金を約800万ウォン/年削減できました。



導入したピーク電力監視装置のモニター画面

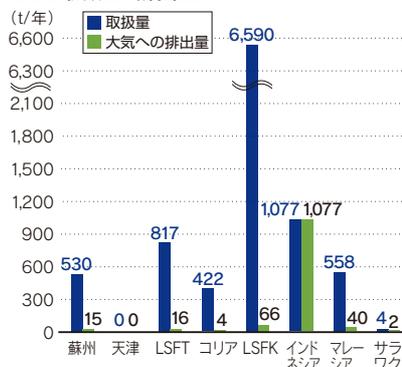
会社概要

所在地: 韓国忠清北道清原郡
従業員数: 94人(2011年12月31日現在)
主な事業内容: 電子・光学関連製品の製造販売

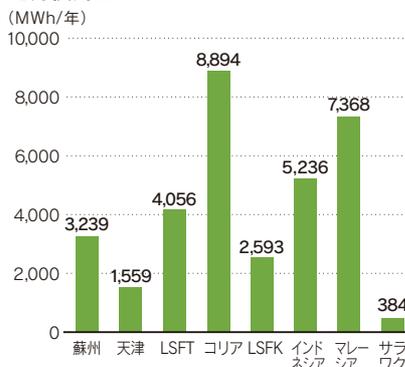
2011年 環境パフォーマンスデータ

海外グループ会社8社における2011年の環境パフォーマンスデータは以下になります。
 なお、集計期間は2011年1月1日から2011年12月31日までとしています。

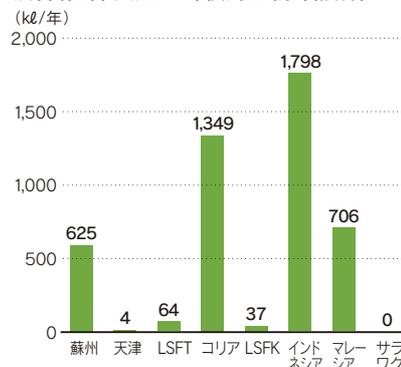
VOC取扱量・排出量



電力使用量



燃料(軽油/天然ガス)使用量(原油換算)



- 注) 1. VOCは、トルエン、メチルエチルケトンを対象としています。
 2. 燃料使用量の原油換算に用いた各燃料の発熱量は、省エネルギー法施行規則第4条に規定されている数値を使用しています。
 3. LSFT:リンテック・スペシャルティ・フィルムズ(台湾)社 LSFK:リンテック・スペシャルティ・フィルムズ(韓国)社

5 リンテック・スペシャルティ・フィルムズ(韓国)社

2012年4月6日に開かれたポスン工業団地の環境美化活動に参加しました。これは同工業団地に在籍している会社が自主的に参加し、団地の環境を管理することが目的です。このような環境美化活動への参加を通して、地域社会との信頼関係づくりに取り組んでいきます。



ポスン工業団地の環境美化キャンペーンに参加

会社概要

所在地: 韓国京畿道平澤市
 従業員数: 117人(2011年12月31日現在)
 主な事業内容: 電子・光学関連製品の製造販売

6 リンテック・インドネシア社

2011年11月に、ISO 14001のグローバル統合認証取得に向けた変更審査を受け、2012年3月に認証されました。今後は、統合サイトの一つとして各サイトとの情報共有を密にし、さらなる環境保全への取り組みを推進していきます。



ISO14001 統合認証を取得したリンテック・インドネシア社

会社概要

所在地: インドネシア西ジャワ州ボゴール
 従業員数: 344人(2011年12月31日現在)
 主な事業内容: 印刷材・産業工材関連製品の製造販売

7 リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社

リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社では、2011年11月にISO14001におけるグローバル統合認証取得に向けた審査が実施され、2012年3月に認証されました。従業員の環境に対する意識も高く、さまざまな取り組みが展開されています(P19参照)。



ISO14001 統合認証を取得したリンテック・インダストリーズ(マレーシア)社

会社概要

所在地: マレーシアペナン州ブキ・メルタジャム
 従業員数: 93人(2011年12月31日現在)
 主な事業内容: 電子・光学関連製品の製造販売

8 リンテック・インダストリーズ(サラワク)社

リンテック・インダストリーズ(サラワク)社は、2012年度中のISO14001グローバル統合認証取得を目指しています。以前から自主的に包装資材のリユースを行い、廃棄物発生量を削減するなど、環境配慮への意識が高まっています。



工場毎朝行われている清掃活動

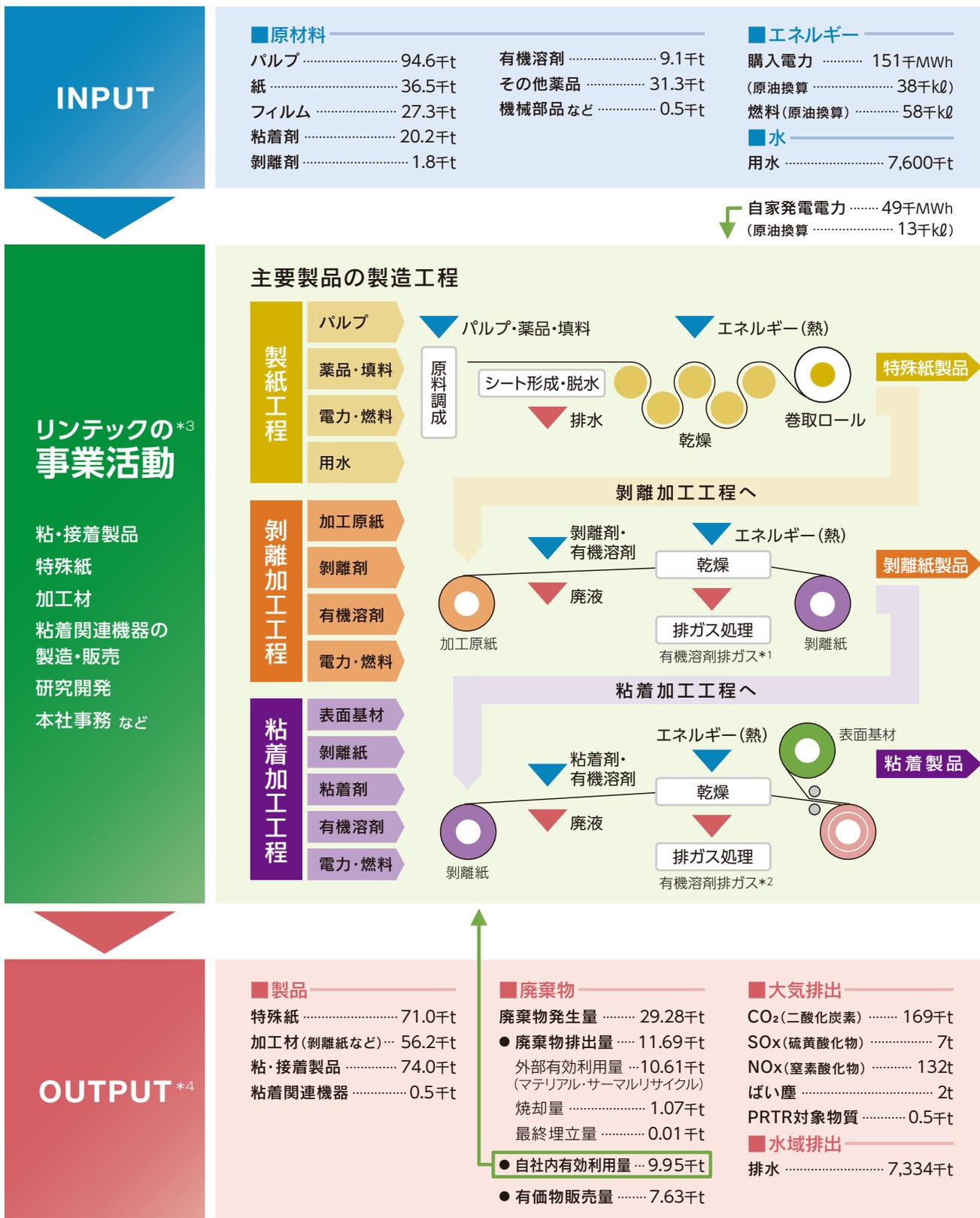
会社概要

所在地: マレーシアサラワク州クチン
 従業員数: 25人(2011年12月31日現在)
 主な事業内容: 電子・光学関連製品の製造販売

リテックと環境のかかわり

リテックグループでは、粘・接着製品や特殊紙、剥離紙などの加工材、粘着関連機器の開発・製造・販売を行っています。これらの事業活動に伴って環境中に排出する廃棄物やCO₂、トルエンなどのPRTR対象物質、排水などによる環境負荷の低減を図るため、生産の効率化や製造方法の改善などに取り組んでいます。

2011年度 マテリアルフロー(国内のみ対象)



*1 無溶剤型シリコーン(剥離剤)を使用した場合は有機溶剤ガスは排出しません。
*2 無溶剤型粘着剤を使用した場合は有機溶剤ガスは排出しません。

*3 INPUTやOUTPUTの数値は営業拠点も含めて算出しています。
*4 OUTPUTには内販は含んでいません。



ジャパン・フォー・サステナビリティ 多田 博之氏

非営利組織ジャパン・フォー・サステナビリティの理事長であり、法政大学客員教授、東北大学大学院環境科学研究科教授、各種官庁の委員などを務める。

リンテックCSRレポート2012を過去の報告書と合わせて読ませていただき、地道にコツコツと一步一步CSR活動の種をまかれ、事業へのCSRの内部化を図られてきた道筋を見ることができました。

社是の一つである「至誠」により、CSRのボトムアップは本社圏においては十分にクリアされ、現状売上高比率が33%にも達している海外への説明会を今行うのは、的を射た活動と感じます。単にCSRレポートや資料を送りつけただけでは、CSRは浸透しません。各地域固有の特性に配慮しつつも、本社がガバナンスを効かせる意味でも、説明会を行うのは、大変よいことです。今やグローバル企業として全世界で事業展開されるに当たり、「国連グローバル・コンパクト」に加盟するのも正しい方向性と感じます。これは特に海外とのCSRの共通認識を持つための礎となるはずです。

企業統治に関して、ヘルプラインを開設されていますが、どの程度の数の相談が寄せられ、どのように会社として対応しているかの情報開示もあってよいと思われます。社会性報告では取引先や従業員とのコミュニケーションはよく分かりま

すが、財務情報と非財務情報の統合化という社会的趨勢が加速しており、今後は株主・投資家とのコミュニケーションにおいても、IR情報の中にCSRを埋め込んでいく努力が必要と思われます。環境報告については、CO₂の削減が喫緊の課題であり、総量での中長期削減目標を定めて、取り組んでいただきたいと思います。また、製品の環境配慮については、商品企画や設計担当者の生の声が聞きたいと感じました。

企業にとって持続可能な成長が不可欠であるのと同様に、現代社会もまた持続可能な社会へと転換を図らねばなりません。そのために企業に何ができるのかを追求し、実行するのがCSRの真髄なのです。そこに貢献するには、もう一つの社是である「創造」が不可欠です。多様なステークホルダーとの新たな関係構築や、技術革新による地球環境負荷の低減への貢献。そうしたことが、今後さらに一歩進んだCSRへと飛躍するためには必要です。ぜひ原点に戻って、「持続可能な社会」とはどんな社会なのかを社内で議論を尽くしてください。そうした社会像を明確に共有することで、より本質的なCSR活動へと飛翔されてほしいと願ってやみません。

第三者意見を受けて

2012年版で初めて第三者意見を頂戴することになり、多田様からのご意見を真摯に受け止めてCSR経営を推進してまいります。

国内外のCSR説明会は、社是の認識とCSRへの姿勢や意欲を共有する重要な場だと考えています。定期開催を希望する声も多く、今後も継続的な開催を検討していきます。

また、ご指摘のあった株主・投資家とのコミュニケー

ションにおいては、CSRの考え方や取り組みを今まで以上に伝える努力をしていきます。

さらに、環境への対応は社会の持続可能性を追求するうえで不可欠です。目標を明確に示し対応するとともに、本業を通じた攻めのCSRである環境配慮型製品の開発をより一層進め、その過程もお伝えするよう心掛けます。

今後も、持続可能な社会づくりのために、当社グループでは社是「至誠と創造」を根幹に置いたCSR活動を推進してまいります。

代表取締役社長
社長執行役員 大内 昭彦

編集後記

今回の特集では、海外グループ各社でのCSR説明会を採り上げました。国や言語が異なる仲間に社是「至誠と創造」やCSRがどのように受け取られるか不安なスタートでしたが、参加者は皆目を輝かせながら話を聞いてくれました。各国の言語で日本語の真心や思いやりを表すのは難しいようですが、言葉は通じなくとも想いは通じることを実感しました。現地のことは現地が一番よく知っており、社是の精神を持って各地で自主的なCSR活動が推進されるように努めていきます。（CSR推進室）



「CSRレポート2012」制作プロジェクトメンバー



本報告書の内容に関するご意見、ご質問などがございましたら、下記までお問い合わせください。

リンテック株式会社 CSR推進室

〒173-0001 東京都板橋区本町23-23
TEL:03-5248-7711 FAX:03-5248-7760
E-mail:csr@post.lintec.co.jp

本報告書はインターネットでもご覧いただけます。
URL:<http://www.lintec.co.jp/csr/>



リンテック株式会社は
国際グリーン購入ネットワークの
会員です。



植物インキを使用しています。

当社高級印刷用紙「Nプレミアムステージ」ホワイトを使用しています。